

教育学研究科教員業績一覧

(2020年4月1日から2021年3月31日)

基礎教育学コース

小玉重夫(教授)

〈著書〉

『発達保育実践政策研究のフロントランナー 第2巻 保育・子育ての社会科学』(編者代表・秋田喜代美, 編者・小玉重夫, 執筆者 両角亜希子, 長島万里子, 松村智史, 森川想, 関智弘, 天野美和子, 山本清, 村上祐介, 小玉重夫, 佐々木織恵, 額賀美紗子, 藤田結子, 中村絵里, 浅井幸子, 若林陽子, 山口美和) 中央法規, 2021年2月, 全294頁

〈論文〉

小玉重夫「市民としての子どもから生まれる新しい公教育」『発達』162号, 2020年4月, ミネルヴァ書房, pp.26-29

小玉重夫「教育学—過去と未来を架橋する出生」日本アーレント研究会編『アーレント読本』法政大学出版会, 2020年7月, pp.289-297

〈翻訳〉

M.R.グレゴリー, J.ヘインズ, K.ムリス『子どものための哲学教育ハンドブッカー世界で広がる探究学習』(小玉重夫 監修, 豊田光世, 田中伸, 田端健人訳者代表) 東京大学出版会, 2020.10. (Maughn Rollins Gregory, Joanna Haynes, and Karin Murriss (eds), *The Routledge International Handbook of Philosophy for Children*, Routledge, 2017)

〈口頭発表〉

小玉重夫「シンポジウム・プラグマティズムの思想史へのコメント」教育思想史学会第30回大会(オンライン開催)2020年9月12日(土)10:00~9月18日(金)17:00

小玉重夫・村松灯・田中智輝「若者の政治参加と高大接続改革」日本政治学会 2020年度総会・研究大会(オンライン開催)2020年9月26日(土)9:45~11:45

小玉重夫「大学段階における主権者教育と高大接続について」(シティズンシップ教育ミーティング2021シリーズ企画)オンライン開催『主権者教育における高大接続改革を考える』2021年3月21日

(日)10:30~12:00

〈その他〉

小玉重夫「指定討論2 翻訳の可能性と困難性—シティズンシップと越境をめぐる問題に着目して」『教育哲学研究』第121号, 教育哲学会, 2020年5月, pp.44-46

小玉重夫「巻頭言」『教育社会学研究 特集 教育と政治』第106集, 日本教育社会学会, 2020年5月, pp.7-11

山本圭・小玉重夫「対談 教育におけるポピュリズムと政治」東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室『研究室紀要』第46号, 2020年7月, pp.67-80

小玉重夫「主権者教育へのメッセージ」藤井剛・大畑方人『ライブ!主権者教育から公共へ』山川出版社, 2020年8月, pp.35-41

小玉重夫「高校生が考える思想, 哲学」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第29号, 2020年9月, p.147

Shigeo Kodama "Possibility and Difficulty of Translation: Issues Related to Citizenship and Border Crossing", *E-Journal of Philosophy of Education: International Yearbook of the Philosophy of Education Society of Japan*, Vol. 5, Published: 18 October 2020, pp.92-94

小玉重夫・坂井俊樹・市川亨子「中学校社会科教員に要請される資質能力」早田幸政編『教員養成教育の質保証への提言』ミネルヴァ書房, 2020.11., pp.227-237

小玉重夫「序文 本報告書の刊行に当たって」2019年度東京大学海洋教育基盤研究プロジェクト報告書『学際的海洋教育カリキュラムの開発及び教職開発』小玉重夫編, 2020年12月, pp.1-3

小玉重夫「報告1 日本学術会議提言の基本コンセプト」教育関連学会連絡協議会・公開シンポジウム『すべての市民に無償の普通教育を!—日本学術会議分科会提言からの問題提起—』教育関連学会連絡協議会事務局, 2021年2月, pp.24-30

小玉重夫「ツリーからリゾームへ軌道から逸れる子どもの探究—」『児童教育』31号, お茶の水女

子大学附属小学校, 2021年2月, pp.27-32
 唐木清志・川口広美・小玉重夫・土肥潤也・古野香織・古田雄一・水山光春・川中大輔「座談会 日本におけるシティズンシップ教育の次のチャレンジは何か?—J-CEF設立から7年間の変化を手がかりに—」『J-CEF NEWS』No.20, 2021年3月, 日本シティズンシップ教育フォーラム, pp.10-14
 小玉重夫「飼い慣らされない主体性を育む場」『東京大学学内広報』1544号, 2021.3.25., p.9

田中智志(教授)

〈著書〉

田中智志(単著), 『独りともに在る——スピノザの教育思想』, 一藝社, 2020.10.10, 総頁数253.
 田中智志(分担執筆), 『海洋白書 2020』(笹川平和財団海洋政策研究所編), 成山書店, 2020.4.18, 総頁数268.
 Tanaka, Satoshi (contributor), “New Development in Ocean Education,” in *White Paper on the Oceans and Ocean Policy in Japan 2020*, ed., Ocean Policy Research Institute, Sasakawa Peace Foundation, OPRI, 2020.7.1, pp.16+pp.53.
 田中智志(分担執筆), 『Ocean at Risk——危うさに立つ海』(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター編), 同センター刊, 2020.10.1, 総頁数48.
 田中智志(編著), 『大正新教育の実践——交響する自由へ』(橋本美保氏と共編), 東信堂, 2021.1.30, 総頁数461.

〈雑誌論文〉

田中智志(単著), 「能力で隠される力——先導する象る力」, 『研究室紀要』第46号, 東京大学大学院教育学研究科 基礎教育学研究室, 2020, pp.49-65.
 田中智志(単著), 「連帯と共存在——コロナ禍と教育学」『世界平和研究』第227号, 平和政策研究所編, 2020, pp.16-20.
 田中智志(単著), 「ハルモニアという像——差異の協奏と非在の現前」『近代教育フォーラム』第29号, 教育思想史学会編, 2020, 99.1-3.

山名 淳(教授)

〈雑誌論文等〉

Yamana, J. (2020), Catastrophe, Commemoration and Education: On the Concept of Memory Pedagogy,

Educational Philosophy and Theory, Vol. 52, Issue 13, pp.1375-1387.

Yamana, Jun (2020), Educational Theory of “Hiroshima” after the “Memory Turn”: Summary of the Symposium and Moderator’s Comments, *E-Journal of Philosophy of Education: International Yearbook of the Philosophy of Education Society of Japan*, Vol. 5, 2020, pp. 52-59.

Yamana, J. (2020), Crossover between Memory Pedagogy and Research on History of Pedagogical Ideas on Catastrophes, Kato, M. (eds.), *Philosophy of Education in a New Key: Voices from Japan (Educational Philosophy and Theory)*, pp.11-12.

山名淳(2020)「司会によるコメントと討論の総括(研究討議 HIROSHIMAという記憶の継承と和解)」『教育哲学研究』第121号, 19-24頁

山名淳(2020)「書評 矢野智司『歓待と戦争の教育学』」『教育学研究』第87巻第3号, 245-247頁

山名淳(2020)「パンデミックは授業に何をもたらしたのか——2020年度前期を振り返る」『音楽教育研究ジャーナル』第53号, 34-37頁

〈学会発表・講演等〉

山名淳「カストロフィ表現の〈空白〉とどう向き合うか——想起文化の10年から100年への途上で」SHIRAKAWA WEEK 2020「復興・創生を背負わされてきた子どもたちの現在と未来」, SHIRAKAWA WEEK 2020実行委員会主催, 2021年3月17日, オンライン開催

比較教育社会学コース

本田由紀(教授)

〈著書〉

本田由紀(単著), 「保育の質の重要性」近藤幹生・幸田雅治・小林美希編著『保育の質を考える』, 明石書店, 2021, pp.18-39.

〈雑誌論文〉

本田由紀(単著), 「世界の変容の中での日本の学び直しの課題」, 『日本労働研究雑誌』No.721, 労働政策研究・研修機構, 2020, pp.63-74.

〈その他〉

本田由紀(単著), 「変わる働き方—私たちは何を得たのか, 何を失ったのか」, 新聞通信調査会『日本人の働き方100年』, 2020, pp.128-131.

本田由紀(学会発表), 「人文社会系大学教育の分野別習得度」, 日本教育社会学会第72回大会(オンライン開催), 2020年9月6日.

Honda, Yuki, 2020, "Government, Policy, and the Role of the State (Japan)" *Bloomsbury Education and Childhood Studies*

本田由紀 (書評), 「思考を鼓舞する書 ケン・ブラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』書評」, Webちくま, 筑摩書房, 2021.

本田由紀, 「日本国憲法における「教育を受ける権利」と政府の義務」『生活経済政策』No.281, 生活経済研究所, 2020, pp.32-33.

本田由紀, 「個人のcapacityか大学のcapacityか」『生活経済政策』No.285, 生活経済研究所, 2020, pp.28-29.

本田由紀, 「多様なキャリア選択を可能にしていくために, 教育の抜本的な見直しが必要だ」, 『問題提起 多様な生き方・キャリアの選択はなぜ難しいのか』, リクルートワークス研究所, 2020.

橋本 鉦市 (教授)

〈論文〉

谷村英洋・小島佐恵子・日下田岳史・橋本鉦市「大学教育の何がアウトソーシングされるのか—アウトソーシングの支持／不支持を分ける教員の意識—」『エンロールマネジメントとIR』2, 大正大学エンロールマネジメント研究所, 2021年3月, 103-116頁。

橋本鉦市・谷村英洋・小島佐恵子・日下田岳史「高等教育におけるアウトソーシング—欧米における研究動向とわが国の現状—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第60巻, 2021年3月, 23-46頁。

〈国内会議記録〉

橋本鉦市「戦後日本の組織アイデンティティ—広告・広報内容から見る変容と現状」『名古屋大学高等教育研究センター』第193回招聘セミナー, 2021年3月4日。

齋藤崇徳・中村知世・寺田悠希・今野翔太・橋本鉦市「学長は大学をどう語り継いできたのか—戦後日本における女子大学の組織アイデンティティ」『日本高等教育学会 第23回大会』2020年5月30～31日, 東京家政大学 (オンライン『発表要旨収録』162-165頁)。

谷村英洋・小島佐恵子・日下田岳史・橋本鉦市「大学教育の何がアウトソーシングされるのか(2)」『日本高等教育学会 第23回大会』2020年5月30～31日, 東京家政大学 (オンライン『発表要旨収録』56-59頁)。

中村 高康 (教授)

〈著書〉

中村高康 (編著), 『大学入試がわかる本: 改革を議論するための基礎知識』, 岩波書店, 2020, 総頁数331.

〈雑誌論文〉

中村高康 (共著), 「高校入試における調査書の意味と機能に関する実証的研究(1): 「入試制度と学校生活に関する調査」の仕様と基礎分析」(林川友貴氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第60巻, 2021, pp.373-382.

〈その他〉

中村高康 (著)「国の教育行政を支える人と組織を理解する—データと資料から読み解く文部科学省— (BOOK REVIEW 青木栄一編著『文部科学省の解剖』東信堂)」, 『季刊教育法』(207), 2020, pp.126-127.

中村高康 (著)「大学入試改革を問う(1)～(9) (連載)」, 『教育新聞』2021年2月～3月

中村高康 (著)「大学入試改革は『失敗』から何を学ぶべきか」, 『中央公論』2021年2月号

中村高康 (著)「書評 高学歴化は高卒学歴イメージを再帰的に修正するのか 藤原翔「第12章 教育, 家族, 危機——学校に対する評価の社会経済的差異とその帰結」」, 東京大学社会科学研究所『社会科学研究』72, pp.179-180.

仁 平 典 宏 (教授)

〈著書〉

仁平典宏 (松元一明と共著論文／分担執筆), 『仮設住宅その10年—陸前高田における被災者の暮らし』, 御茶の水書房, 2020, pp.130-155.

仁平典宏 (共著／分担執筆), 『未完のオリンピック—変わるスポーツと変わらない日本社会』, かがわ出版, 2020, pp.91-112.

額 賀 美紗子 (准教授)

〈著書〉

額賀美紗子・藤田結子 (分担執筆), 「働く母親の時間負債をめぐるジレンマ: 「教育時間」と「自由時間」の創出にみる階層格差」秋田喜代美・東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター編『発達保育実践政策学研究のフロンティア第二巻』2021, pp.139-167.

〔雑誌論文〕

額賀美紗子（単著）、「アメリカの市場型教育改革と多様性をめぐるポリティクス：バイリンガル教育の展開にみるマイノリティ言語の価値闘争」『教育社会学研究』第106号，2020，pp.121-144.

生涯学習基盤経営コース

牧 野 篤（教授）

（2019.4～2021.3）（2020年度にサバティカルであったため，2019年度分の業績も含めて掲載する）

〔著書・単著〕

牧野篤『公民館をどう実践してゆくのか—ちいさな社会をたくさんつくる・2—』東京大学出版会，2019年，総頁数266

〔著書・共著〕

牧野篤他『社会基盤としての社会教育再考—社会教育の再設計：シーズン1～未来への羅針盤をつくる知の冒険—』日本青年館新書，2020年，総頁数159（担当部分45-153頁）

〔編著〕

牧野篤編『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装—』東京大学出版会，2020年，総頁数368

〔論文・単著・日本語〕

牧野篤「「形式」と「ことば」による当事者の生成—多世代の「学び」によるまちづくりのプロセスを考える—」，特定非営利活動法人日本世代間交流協会『世代間交流』第13・14合併号（通算第20・21合併号），2021年3月，1-10頁

牧野篤「信頼を贈りあう社会へ—高齢社会の新しい姿」，牧野篤編『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装—』，東京大学出版会，2020年8月，335-351頁

牧野篤「多世代交流型コミュニティの構想と実践—千葉県柏市高柳地区の試み」，牧野篤編『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装—』，東京大学出版会，2020年8月，184-198頁

牧野篤「社会保障としての学び—「社会」をつくりだす生涯学習へ」，牧野篤編『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装—』，東京大学出版会，2020年8月，14-24頁

牧野篤「人生100年時代の社会へ—高齢社会悲観論への違和感と「ちいさな社会」」，牧野篤編『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュ

ニティの設計と実装—』，東京大学出版会，2020年8月，1-12頁

牧野篤「「学び」を地域コミュニティに実装する—想像力と配慮による当事者形成のプロセスを考える—（最終回）」，『月刊公民館』（2021年1月号（通巻764号）），2021年1月，14-19頁

牧野篤「「学び」を地域コミュニティに実装する—想像力と配慮による当事者形成のプロセスを考える—（第4回）」，『月刊公民館』（2020年12月号（通巻763号）），2020年12月，18-21頁

牧野篤「「学び」を地域コミュニティに実装する—想像力と配慮による当事者形成のプロセスを考える—（第3回）」，『月刊公民館』（2020年11月号（通巻762号）），2020年11月，15-21頁

牧野篤「「学び」を地域コミュニティに実装する—想像力と配慮による当事者形成のプロセスを考える—（第2回）」，『月刊公民館』（2020年10月号（通巻761号）），2020年10月，24-29頁

牧野篤「「学び」を地域コミュニティに実装する—想像力と配慮による当事者形成のプロセスを考える—（第1回）」，『月刊公民館』（2020年9月号（通巻760号）），2020年9月，16-23頁

牧野篤「住民変容の筋道：ワークショップの特徴」，東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「住民自治を基盤とした社会システム構築事業」共同研究チーム『自治に気づくワークショップ—住民自治を基盤とした社会システム構築事業 松本市調査報告書・2／学習基盤社会研究・調査モノグラフ20』，2020年6月，46-58頁

牧野篤「信頼と自治のプロセスとしての地域社会のために」，東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「住民自治を基盤とした社会システム構築事業」共同研究チーム『自治に気づくワークショップ—住民自治を基盤とした社会システム構築事業 松本市調査報告書・2／学習基盤社会研究・調査モノグラフ20』，2020年6月，1-5頁

牧野篤「社会教育は社会教育でなければならない—自治を発明し直す（3）」，『月刊公民館』（2020年6月号（通巻757号）），2020年6月，8-13頁

牧野篤「想像力と配慮：よそ者が当事者となること」，東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「ぎふスーパーシニア」共同研究チーム『ともに当事者となるということ—「ぎふスーパーシニア」共同研究第3年目の報告—／

学習基盤社会研究・調査モノグラフ19』, 2020年5月, 152-168頁

牧野篤「社会教育は社会教育でなければならない—自治を発明し直す(2)」, 『月刊公民館』(2020年5月号(通巻756号)), 2020年5月, 9-13頁

牧野篤「社会教育は社会教育でなければならない—自治を発明し直す(1)」, 『月刊公民館』(2020年4月号(通巻755号)), 2020年4月, 9-17頁

牧野篤「人生100年時代を支える「学び」—持続可能なまちづくりと住民の「楽しい自治」」, 『ガバナンス』No.221, 2019年9月号, 2019年9月, 20-22頁

牧野篤「地域と学びを焦点化する—住民自治を基本とする新しい社会システムを考えるために—」, 東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「住民自治を基盤とした社会システム構築事業」共同研究チーム『町会から始まる新たな自治—住民自治を基盤とした社会システム構築事業 松本市調査報告書・1／学習基盤社会研究・調査モノグラフ17』, 2019年8月, 5-11頁

牧野篤「学びを通して誰もが主役になる社会へ(上)(下)—2018年中教審答申を受けとめるための断想」, 『月刊公民館』(2019年6月号(通巻745号)), 2019年6月, 34-41頁, 同(2019年7月号(通巻746号)), 2019年7月, 32-37頁

牧野篤「ともにわたしたちになる—「ことば」を介したもののづくりワークショップの醍醐味—」, 東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室『もののづくりが仲間づくりになる場—もののづくりワークショップ5年間の記録—』(学習基盤社会研究・調査モノグラフ15), 2019年5月, 1-12頁

牧野篤「誇りと想像力が創る対話的つながり—生涯学習の観点から—」, 日本都市計画学会『都市計画』349 (Vol.70 No.2), 2021年3月, 98-99頁

〈論文・共著・日本語〉

牧野篤・飯間敏弘・佐々木佐織・東啓二「成年後見人等の担い手確保について—後見人を支え、育む地域文化の醸成と自治体の責務—」, 『自治体法務研究』No.57 (2019夏), 2019年5月, 29-33頁(担当部分: はじめに・1 後見人と地域社会)

〈論文・単著・中国語〉

牧野篤「『高齢者』概念的革新: 高度消費超高齢社会中的新的『存在』者」, 華南師範大学東南亜研究中心『東南亜論壇第三屆國際會議『命運共同体視域

下的粵港澳大湾区與東南亜』論文集』, 2019年11月, 11-27頁

〈論文・共著・中国語〉

牧野篤・馬麗華・娜仁高娃「『高齢者』内涵の重塑: 基于非自反性存在的終身学習」, 『華東師範大学学報(教育科学版)』2020年第10期, 2020年10月, 149-157頁 (DOI:10.16382/j.cnki.1000-5566.2020.10.009)

〈論文・単著・英語〉

Makino, Atsushi, Inventing the new concept of 'learning' for the era of the 100-year life in Japan: Creating society comprising countless 'small societies' organized through 'learning', CR&DALL(Center for Research and Development in Adult and Lifelong Learning), Glasgow University, Working Paper Series, WP801/2020 (CR&DALL WP801/2020, CR&DALL, Glasgow (UK)), (<http://cradall.org/workingpapers/inventing-new-concept-learning-era-100-year-life-japan-creating-society-comprising-0>) (2020年11月12日確認)

〈その他〉

牧野篤「シンポジウム」, 『第42回全国公民館研究集会北海道大会・第64回北海道公民館大会inそうべつ 大会集録 テーマ「自然災害に対応する公民館活動〜地域の自然を活かした防災教育〜」』, 2021年3月, 28-50頁

牧野篤「これからはどんな時代になるの?—人生100年, AIの劇的發展, そしてコロナ禍—」, 杉並区教育委員会『すぎなみ教育報』No.238, 2020年12月, 3頁

牧野篤「人生に大切な「砂場」としての子供園」, 杉並区教育委員会事務局庶務課『令和2年度杉並区教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(令和元年度分)報告書』, 2020年11月, 39-41頁

牧野篤「おわりに(議長寄稿)」, 第32期横浜市社会教育委員会議『第32期横浜市社会教育委員会議提言—本市における社会参加のすそ野の拡大について—』, 横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課, 2020年11月, 15頁

牧野篤「社会教育の再設計(シーズン1 延長戦) 第5回から 生活の基盤としての社会教育・公民館—自治を再発明する—(その5)」, 『社会教育』2020年10月号(通巻892号), 2020年10月, 72-83頁

牧野篤「社会教育の再設計〈シーズン1 延長戦〉第5回から 生活の基盤としての社会教育・公民館—自治を再発明する—（その4）」、『社会教育』2020年9月号（通巻891号），2020年9月，24-31頁

牧野篤「基調講演「町内公民館からはじめるコミュニティづくり」」，松本市・松本市教育委員会・松本市地域づくり研究連絡会『未来へつなぐ 私たちのまちづくりの集い〜第35回公民館研究集会 地域づくり市民活動研究集会〜 記録集』，2020年8月，4-19頁

牧野篤「社会教育の再設計〈シーズン1 延長戦〉第5回から 生活の基盤としての社会教育・公民館—自治を再発明する—（その3）」、『社会教育』2020年8月号（通巻890号），2020年8月，42-49頁

牧野篤「社会教育の再設計〈シーズン1 延長戦〉第5回から 生活の基盤としての社会教育・公民館—自治を再発明する—（その2）」、『社会教育』2020年7月号（通巻889号），2020年7月，52-59頁

牧野篤「社会教育の再設計〈シーズン1 延長戦〉第5回から 生活の基盤としての社会教育・公民館—自治を再発明する—（その1）」、『社会教育』2020年6月号（通巻888号），2020年6月，38-44頁

牧野篤「「底抜けしない社会をつくるための社会教育の役割」を考えるための大学(研究)の役割について」，日本社会教育学会『社会教育学研究』第56巻，2020年5月，82-83頁

牧野篤「報告I 超高齢社会における高齢者の学び—高齢者の社会参加〜「主体」を問い直す—」，日本社会教育学会『社会教育学研究』第56巻，2020年5月，56-57頁

牧野篤「当事者性を問い返す」，東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「ぎふスーパーシニア」共同研究チーム『ともに当事者となるということ—「ぎふスーパーシニア」共同研究第3年目の報告—／学習基盤社会研究・調査モノグラフ19』，2020年5月，1-4頁

牧野篤「地域社会に再定位する公民館—2018年度全国公民館実態調査結果分析の報告に寄せて—」，『月刊公民館』（2020年4月号（通巻755号）），2020年4月，24-28頁

牧野篤「記念講演「未来を担う子どもたちのために

—これからの地域社会と公民館の役割—」，群馬県西部ブロック公民館連絡協議会・高崎市公民館連絡協議会『令和元年度 西部ブロック公民館研究集会・高崎市公民館研究集会 報告書』，2020年3月，19-39頁

牧野篤「評価ではなくて，ともに位置づくこと—キッズセミナーの愉しみ—」，東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室キッズセミナー・チーム『ともに位置づくことの愉しみ—東大キッズセミナー2019年度の取り組み—』，2020年3月，i-ii頁

牧野篤「信頼と自治の基盤としての「学び」の実現を」，杉並区教育委員会『令和元年度杉並区教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成30年度分）報告書』，2020年2月，42-43頁

牧野篤「志學館大学生涯学習センター創立20周年記念シンポジウム「志學館大学生涯学習センターのこれまでとこれから—地域と歩む大学をめざして—」（助言者）」，志學館大学生涯学習センター『志學館大学生涯学習センター創立20周年記念誌』，2019年11月，5-22頁

牧野篤「はじめに」，MONO-LAB-JAPAN sumate 2020年版，2019年11月，1-2頁

牧野篤「底抜けしない社会のために」，東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「ぎふスーパーシニア」共同研究チーム『地域と学校を架橋する—「ぎふスーパーシニア」共同研究第2年目の報告—／学習基盤社会研究・調査モノグラフ16』，2019年8月，43-46頁

牧野篤「地域と学校がつくる子どもと社会の未来」，東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「ぎふスーパーシニア」共同研究チーム『地域と学校を架橋する—「ぎふスーパーシニア」共同研究第2年目の報告—／学習基盤社会研究・調査モノグラフ16』，2019年8月，5-8頁

牧野篤「六月集会（東京大学）報告「会場校から「転換点に立つ社会教育をめぐる」」」，日本社会教育学会『学会からのお知らせ』2019年第3号（通巻225号），2019年8月，1頁

牧野篤「「2019未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い」全体会（まとめの会）」，松本市・松本市教育委員会・松本市地域づくり研究連絡会・未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い実行委員会『未来へつなぐ 私たちのまちづくりの集い〜第

34回公民館研究集会 地域づくり市民活動研究集会～ 記録集』, 2019年 6 月, 122-130頁

牧野篤「第7分科会「この先、人口が減るとどうなるの」話題提供」, 松本市・松本市教育委員会・松本市地域づくり研究連絡会・未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い実行委員会『未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い～第34回公民館研究集会 地域づくり市民活動研究集会～ 記録集』, 2019年 6 月, 72-73頁

牧野篤「基調講演「“未来につなぐ”わたしたちにできること」」, 松本市・松本市教育委員会・松本市地域づくり研究連絡会・未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い実行委員会『未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い～第34回公民館研究集会 地域づくり市民活動研究集会～ 記録集』, 2019年 6 月, 6-21頁

牧野篤「パネルディスカッション「学びを通じた地域づくり」」, 入間地区公民館連絡協議会『第33回入間地区公民館研究集会記録集「学びを通じた地域づくり～新しい時代の公民館の果たすべき役割～」』, 2019年 5 月, 41-61頁

牧野篤「基調講演「学びを通じた地域づくり～新しい時代の公民館の果たすべき役割～」」, 入間地区公民館連絡協議会『第33回入間地区公民館研究集会記録集「学びを通じた地域づくり～新しい時代の公民館の果たすべき役割～」』, 2019年 5 月, 6-40頁

牧野篤「2019年度六月集会のご案内「会場校から」」, 日本社会教育学会『学会からのお知らせ』2019年第1号(通号223号), 2019年 4 月, 1頁

〈その他・Web〉

牧野篤「Withコロナが予感させる不穏な未来／子どもの未来のコンパス(12)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-12/>), 2021年 3 月

牧野篤「Withコロナが気づかせる生活の激変と氷河期の悪夢／子どもの未来のコンパス(11)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-11/>), 2021年 2 月

牧野篤「Withコロナが気づかせる平成の不作為／子どもの未来のコンパス(10)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-10/>), 2021年 1 月

牧野篤「Withコロナが暴く社会の底抜け／子どもの未来のコンパス(9)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-09/>), 2020年12月

牧野篤「Withコロナが問う慣性力の構造／子ども

の未来のコンパス(8)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-08/>), 2020年12月

牧野篤「Withコロナが暴く学校の慣性力／子どもの未来のコンパス(7)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-07/>), 2020年11月

牧野篤「世界を変えろ！ インフラで」, インフラテクコン (<https://www.infratechcon.com/makino/>), 2020年10月

牧野篤「Withコロナが再び示す「社会の未来」としての学校／子どもの未来のコンパス(6)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-06/>), 2020年 9 月

牧野篤「Withコロナが呼び戻す学校動揺の記憶／子どもの未来のコンパス(5)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-05/>), 2020年 8 月

牧野篤「Withコロナがあぶりだす「みんな」の「気配」／子どもの未来のコンパス(4)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-04/>), 2020年 7 月

牧野篤「Withコロナで迫り出すこの社会の基盤／子どもの未来のコンパス(3)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-03/>), 2020年 7 月

牧野篤「Withコロナの中の自由／子どもの未来のコンパス(2)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-02/>), 2020年 6 月

牧野篤「Withコロナがもたらす新しい自由／子どもの未来のコンパス(1)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino-01/>), 2020年 5 月

牧野篤「「学び」を通して主役になる／特別寄稿：学びを通して誰もが主役となる社会へ(6－完結)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino06/>), 2019年 9 月

牧野篤「子どもたちを見失わないために、社会が「せねばならない」二つのこと／特別寄稿：学びを通して誰もが主役となる社会へ(5)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino05/>), 2019年 8 月

牧野篤「子どもたちに行政的な措置をとるほど、社会の底に空いてしまう“穴”／特別寄稿：学びを通して誰もが主役となる社会へ(4)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino04/>), 2019年 8 月

牧野篤「子どもの教育をめぐる動き／特別寄稿：学びを通して誰もが主役となる社会へ(3)」, やる気ラボ (<https://www.yaruki-lab.jp/makino03/>),

2019年8月

牧野篤「子どもたちは“将来のおとな”から“現在の主役”に変わっていく／特別寄稿：学びを通して誰もが主役となる社会へ（2）」、やる気ラボ（<https://www.yaruki-lab.jp/makino02/>），2019年7月

牧野篤「あらゆる人が社会をつくる主役となり得る／特別寄稿：学びを通して誰もが主役となる社会へ（1）」、やる気ラボ（<https://www.yaruki-lab.jp/makino01/>），2019年7月

〈その他・中国語〉

牧野篤「如何應對少子老齡化：“小型社会”的構建與“學習”的再概念化」，《開放教育研究》第25卷第6期，2019年12月，4-11頁

〈学会発表など・日本〉

牧野篤「「学び」という運動へ—生涯学習から見た地域社会・市場、そして人—」，日本価値創造ERM学会 学術セミナー「生涯学習に向き合う個人・企業・社会—価値創造とリスクの視点で—」，2021年2月9日，オンライン

牧野篤「「再帰性のほころび」から見た高齢者の社会的存在—超高齢社会のコミュニティをとらえ返すために」，日本コミュニティ心理学会第23回大会シンポジウム「高齢化社会から考える“コミュニティ”の学際的意味—コミュニティ心理学の役割とは」，2020年9月19日，オンライン

牧野篤「（学び）の恩送り—底抜けしない社会をつくる」，日本ソーシャルイノベーション学会2019年東京夏期セミナー，2019年9月21日，東京工業大学

牧野篤「超高齢消費社会における高齢者という存在—エディプスが死んだ社会の「主体」を問い直す—超高齢社会におけるシニアの学び」，日本社会教育学会第66回大会 プロジェクト研究「高齢社会と社会教育」，2019年9月15日，早稲田大学

牧野篤「社会教育と大学の役割—底抜けしない社会をつくるための大学の役割—」，日本社会教育学会第66回大会 会場校企画「社会教育と大学の役割」，2019年9月14日，早稲田大学

〈学会発表など・中国〉

牧野篤「学習：改造“個体”為“関係態”的運動—在人生100年時代裡“學習”概念的刷新／日本社会的転型及終身学習政策和实践的核心問題—」，第二届社会教育論壇“終身教育與學習型社会”，山西大学教育科学学院社会教育研究中心，2019年11月26日
牧野篤「‘高齢者’概念的革新—高度消費超高齢社会

中的新的‘存在’者」，“東南亞論壇”第三屆國際會議「命運共同体視域下的粵港澳大湾区與東南亞」，華南師範大學東南亞研究中心，2019年11月16日

牧野篤「‘高齢者’概念的革新—高度消費超高齢社会中的新的‘存在’者」，第七屆上海市終身學習國際論壇，華東師範大學上海市終身學習研究院，2019年10月20日

〈学会発表など・台湾〉

牧野篤「‘高齢者’概念的革新—高度消費超高齢社会中的新的‘存在’者」，2019樂齡學習國際研討會：活躍老化，百年人生設計（International Conference on Active Aging and Learning: Designing the Narrative for 100 Years），國立中正大學，2019年11月8日

牧野篤「聯結・快樂・多世代交流—自少子高齡化人口減少社会“悲觀論”転移到人生100年時代“希望論”：在日本社会裡多世代交流型社区营造模式—」，2019 高齢終身學習與福祉科技國際檢討會（2019 Senior Lifelong Learning and Gerontechnology International Conference），台中市國立自然科學博物館，2019年4月26日

〈学会発表など・韓国〉

Makino, Atsushi, Issues and Policy Trends in Japan's 100-year Life Society: Social Renewal Targeting Communities, Jeju Government Lifelong Education Division, Jeju Forum Special Session: Post Covid 19, The Beginning of a New Lifelong Education Century, and Discovery of Old Age, November 7th, 2020, Online (on demand)

Makino, Atsushi, From Pessimism for a Super-aged Society to Hope for a 100-Year Life Society: Challenges and Initiatives for a Healthy and Long-Lived Society in Japan, The 15th Seoul International Gerontology Symposium (2020), October 13th and 26th, 2020, Online (on demand)

李 正 連（教授）

〈著書〉

李正連（分担執筆）「韓国における持続可能な高齢社会の構築と学び」牧野篤編『人生100年時代の多世代共生——「学び」によるコミュニティの設計と実装——』東京大学出版会，2020年8月，pp.311-319

〈論文〉

李正連（単著）「韓国における超高齢社会に向けた

教育と福祉の地域共同体づくり—論山市の「同苦同楽」地域共同体事業を中心に—『社会教育と福祉とコミュニティ支援の比較研究』第3集（科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書（研究代表者：松田武雄）），2020，pp.13-25.

李正連（単著）「日本の地方消滅と農村地域の教育的対応」国立公州大学教育研究所『教育研究』35-1，2020，pp. 31-59.（韓国語）

李正連（単著）「ウィズコロナ・ポストコロナ社会をどう生き抜くのか」、『東アジア社会教育研究』Vol.25，東京・沖縄・東アジア社会教育研究会，2020，pp.2-4.

〈学会発表・講演等〉

李正連「韓国人は日本をどう見ているのか、そして韓国市民社会とキャンドル革命」PARC自由学校講座〈世界の学校〉『平和のための日韓市民連帯—1700万人の「キャンドル革命」に学ぶ』，2020.8.20，PARC自由学校.

李正連「日本の高等教育と生涯教育」，2020.11.26，韓国：ソウル大学大学院教育学科（特別講義，オンライン）.（韓国語）

李正連「学びを基盤とした地方創生」，2021.1.25，横浜市立大学国際商学部国際商学科（特別講義，オンライン）.

新 藤 浩 伸（准教授）

〈著書〉

北田耕也先生追悼集編集委員会編（共編著），『直指人心—北田耕也先生追悼集』私家版，2020，総頁数381.

〈雑誌論文〉

ライザ・ゴンザレス・サントス，ジョンソン・ネイ・ディアス・ダ・シルヴァ著，新藤浩伸訳，「成人教育の場におけるデジタル技術の活用」，『月刊社会教育』64（12），2020，pp.58-61.

新藤浩伸（書籍紹介），「直指人心—北田耕也先生追悼集」『社会教育・生涯学習研究所年報』16，2021，pp.173-175.

〈学会等発表〉

新藤浩伸，北垣憲仁，今井尚，伊藤瑠依「博物館の原理に関する研究—空間・集い・経験（2）」東京大学ヒューマニティーズセンター第30回オープンセミナー 2020年12月18日

〈その他〉

小沼純子，西原みどり，森忠，新藤浩伸（パネリス

ト），西東京市ひばりが丘公民館公開座談会 つなごう！ ひばりが丘公民館の未来へ，2021年1月31日

新藤浩伸（講演）「新しい生活様式と公民館の役割」東京都昭島市公民館利用者懇談会学習会，2020年12月21日

宮 内 拓 也（特任助教）

〈論文〉

宮内拓也，影浦峯. 2021.「言語学的カテゴリーに基づく翻訳Qスキームの分析」，『生涯学習基盤経営研究』45: 13-26.

宮内拓也，プロホロワ・マリア. 2020.「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のロシア語翻訳データの構築とその日露対照研究への活用の可能性」，『国立国語研究所論集』19: 167-185.

Miyauchi, Takuya. 2020. A phase-theoretic account of restrictions on θ -roles of postnominal genitives in Russian event nominal phrases, In *Formal Approaches to Slavic Linguistics: The Urbana-Champaign Meeting 2017*, ed. Tania Ionin and Jonathan MacDonald, 264-282. Ann Arbor: Michigan Slavic Publications.

宮内拓也，浅原正幸. 2020.「日本語における名詞句の情報構造と語順の相関についての統計的検討」，『自然言語処理』27(2): 361-382.

〈学会発表〉

Miyauchi, Takuya, Rei Miyata, and Kyo Kageura. 2021. Constructing a metalanguage for analyzing source documents in translation practice, The 3rd International Conference “EnTReTextos”, 13-14 May., University of Alicante (Spain). (COVID-19 対応のためオンライン開催)

宮内拓也，宮田玲. 2020.「起点文書分析のためのメタ言語構築」，日本通訳翻訳学会関東支部第57回例会，9月26日，東京大学. (COVID-19対応のためオンライン開催)

大学経営・政策コース

両 角 亜希子（教授）

〈著書〉

両角亜希子「大学入試改革の再検討」教育の未来を研究する会『最新教育動向2021—必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120』明治図書，58-61頁，2021年1月

両角亜希子・長島万里子・松村智史「保育者養成の
高学歴化」東京大学大学院教育学研究科付属発達
保育実践政策学センター監修『発達保育実践政策
学研究のフロンランナー 第2巻 保育・子育て
の社会科学』中央法規, 1-34頁, 2021年2月

〈雑誌論文〉

両角亜希子「総論：新任教職員研修の意義と課題」
『IDE現代の高等教育』No.619, 2020年4月号,
4-9頁。

森卓也・両角亜希子「私立大学の中期計画に関する
学長調査 詳細分析vol.1 中期計画の習熟効果
ー経験を重ねることによる中期計画の策定・運
用の変化ー」http://souken.shingakunet.com/college_m/2020/04/vol1-d607.html (リクルート総研ウェブサイト2020/4/2掲載)

高木航平・両角亜希子「私立大学の中期計画に関
する学長調査 詳細分析vol.2 中期計画の策定
と運用における専門部署の価値」http://souken.shingakunet.com/college_m/2020/04/vol2-421b.html
(リクルート総研ウェブサイト2020/4/10掲載)

宮里愛・両角亜希子「私立大学の中期計画に関
する学長調査 詳細分析vol.3 中期計画の策
定・実施におけるリーダーシップ」http://souken.shingakunet.com/college_m/2020/04/vol3-433d.html
(リクルート総研ウェブサイト2020/4/17掲載)

杉本昌彦・両角亜希子「私立大学の中期計画に関
する学長調査 詳細分析vol.4 私立大学の中
期計画の共有・浸透」http://souken.shingakunet.com/college_m/2020/04/vol4-7c54.html (リクルート総
研ウェブサイト2020/4/24掲載)

両角亜希子「徹底的な学生視点と建学の理念の追求
(事例：流通経済大学)」リクルート『カレッジ
マネジメント』224号, 68-71頁

両角亜希子「大学経営の今とこれから」『現代思想
ーコロナ時代の大学』vol.48-14, 46-56頁

両角亜希子「マネジメント改革と大学の現場ー理
事・副学長調査からー」『IDE現代の高等教育』
No.625 (2020年11月号), 37-43頁

両角亜希子「大学ガバナンス・コードとは何か」
『IDE現代の高等教育』No.626 (2020年12月号),
11-17頁

両角亜希子「大学上級管理職の経営能力養成の現状
と今後」『日本労働研究雑誌』No.725, 2020年12
月

両角亜希子「職員のあるべき姿と育成方針を明確

化し、大学の魅力化につなげる(事例：大正大学)」リクルート『カレッジマネジメント』226号,
2021年1-2月号, 34-37頁

両角亜希子「私立大学のガバナンスの課題と未来」
日本私立大学協会附置私学高等教育研究所創立20
周年記念誌『私立大学研究の到達点』2021年3月,
46-49頁

両角亜希子「日本型大学IRの発展の方向性ー大学
経営研究からの提案ー」『エンロール・マネジ
メントとIR』2021年3月, 第2集, 5-20頁

〈口頭発表〉

両角亜希子「学校法人のガバナンスー現状と課題」
文部科学省学校法人のガバナンスに関する有識
者会議(第3回), 2020年5月20日, 文部科学省
16F1会議室(ZOOMによる会議)

両角亜希子「第1回オンライン学長セミナー 趣旨
説明」東京大学大学院教育学研究科大学経営・
政策コース「2020年度第1回オンライン学長セ
ミナー：コロナと大学ー現状と今後の大学のあり
方をめぐって」(2020年8月4日, ZOOM開催)

両角亜希子「オンライン事務局長セミナー 趣旨説
明」東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策
コース・大学経営政策フォーラム「2020年度
オンライン事務局長セミナー：コロナと大学ー現
状と今後の大学のあり方をめぐって」(2020年8
月14日, ZOOM)

両角亜希子「これからの大学の将来像」豊田工業
大学 豊田喜一郎記念ホールこけら落とし講演会,
2020年9月19日, ZOOMにて

両角亜希子「大学の課題と必要な改革」文部科学
省 2030年を見据えた教育政策検討タスクフォ
ース 勉強会(2020年10月2日, ZOOM)

両角亜希子「これからの大学経営と職員の役割」
大学コンソーシアム京都 2020年度 第18回SD
フォーラム「新たな価値を生むこれからの大学職
員の姿ールーティンワークからの脱却ー」(2020
年10月25日, ZOOM)

両角亜希子「学長のリーダーシップの条件」東洋
大学セミナー(2020年11月2日, Webex)

両角亜希子「学長リーダーシップについて」大正
大学 人間学部 教育人間学科 教育マネジメントC
のゲスト講師(2020年11月10日, ZOOM)

両角亜希子「これからの大学経営とミドルマネ
ジメント層の役割」日本能率協会第12回大学マ
ネジメント改革総合大会 講演(2020年11月19日,

ZOOM)

両角亜希子「コロナ禍における私大経営」千葉県私立大学短期大学協会 研修会 (2020年11月27日, ZOOM)

両角亜希子「ポストコロナ時代における大学職員の人材育成」公立大学協会 令和2年度事務運営(人事)に関する協議会 基調講演 (2020年12月14日, ZOOM)

両角亜希子「大学における上級管理職育成のあり方とIR」大正大学EMIR研究会 (2020年12月14日, ZOOM)

両角亜希子「学長セミナー 学長と理事会のあり方趣旨説明」東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース「2020年度 第3回オンライン学長セミナー 学長と理事会のあり方」(2020年12月28日, ZOOM)

両角亜希子「大学組織のリーダーシップとフォローアップ」大学教育改革フォーラム in 東海 2021基調講演 (2021年3月6日, ZOOM)

両角亜希子「成果の上がる中期計画の策定・運用」相山女学園大学SD勉強会 (2021年3月9日, ZOOM)

〈その他〉

両角亜希子「書評 ジェリ・Z・ミューラー著『測りすぎーなぜパフォーマンス評価は失敗するのか?ー』(みすず書房)」『IDE現代の高等教育』No.619, 2020年4月号, 70-71頁。

両角亜希子「入試より選抜した学生の教育に大学は注力すべき」『週刊ダイヤモンド』2020年3月14日号 (インタビュー記事)

東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター『大学の財務担当理事調査 報告書』(2020年4月) (編集・分担執筆を担当)

AERA dot. 2020年4月24日へのコメント

<https://dot.asahi.com/dot/2020042300069.html?page=3>

Times Higher Education 2020年6月5日へのコメント

<https://www.timeshighereducation.com/news/only-top-foreign-students-japan-receive-coronavirus-aid>

「混乱期こそ大学のマネジメント力が問われる」2020年7月27日 (インタビュー記事)

<https://www.asahi.com/edua/article/13568853>

東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター『教育担当理事調査 報告書』(2020年

7月) (編集・分担執筆を担当)

両角亜希子「コロナ禍で実態が浮き彫り・原点に立ち返るきっかけへ」『週刊ダイヤモンド2020年8/8・15合併号』32頁 (インタビュー調査)

両角亜希子「混乱期に必要な学長の力」朝日新聞 EduA Vol.32「知りたい・聞きたい・ポストコロナの大学」2020年8月23日号, 6面

Times Higher Education Virtual World Academic Summit 2020 (1-2 September, 2020) “A New Dawn for Higher Education”へのビデオメッセージ

東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース「2020年度第2回オンライン学長セミナー：学長から見たIRーデータをどう改革に活かすか」(2020年9月3日, ZOOM開催) コーディネーター Times Higher Education 2020年9月8日へのコメント

<https://www.timeshighereducation.com/news/tokyo-tests-waters-asia-embraces-bond-financing>

読売新聞 2020年9月11日「地域活性化狙い大学再編」(13面) へのコメント

<https://www.yomiuri.co.jp/commentary/20200910-OYT8T50142/>

Times Higher Education 2020年9月18日へのコメント

<https://www.timeshighereducation.com/news/japan-campuses-open-classes-stay-firmly-online>

両角亜希子「Book Review 中島英博著『大学教職員のための大学組織論入門』」『IDE現代の高等教育』No.624, 2020年10月号, 72-73頁

東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース「2020年度 オンライントップセミナー コロナと大学 課題・現状・これから」(2020年12月2日, ZOOM開催) コーディネーター

両角亜希子「これからの大学経営と人事マネジメント」2020年度 東京大学 階層別SDプログラム〈課長・副課長級〉オンデマンド教材

両角亜希子「これからの大学経営と人事マネジメント」2020年度 東京大学 階層別SDプログラム〈係長級〉オンデマンド教材

Times Higher Education 2021年2月4日へのコメント

<https://www.timeshighereducation.com/news/japan-raises-funds-ps70-billion-university-research-endowment>

私大連フォーラム2020「ポストコロナの大学教育の

あり方」パネルディスカッション パネリスト
<https://www.shidaiaren.or.jp/activities/forum/> (2021
 年3月22日より動画配信)

福留東土 (教授)

〈著書〉

福留東土・戸村理・蝶慎一編『教養教育の日米比較研究』高等教育研究叢書158, 広島大学高等教育研究開発センター, 2021年3月

福留東土 (分担執筆) 「アメリカにおける文系修士課程の機能拡大」吉田文編『文系大学院をめぐるトリレンマ』2020年8月

〈雑誌論文〉

福留東土・長沢誠・川村真理・佐々木直子・蝶慎一「COVID-19がアメリカの大学にもたらした影響—2020年上半期の報告—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第60巻, 2021年3月, pp.605-631.

福留東土「アメリカにおけるビジネススクールの成立と初期的展開」『大学史研究』29, 2021年3月, pp.87-113.

福留東土「現代アメリカにおける教養教育に関する一考察—AAC&Uを中心に」『兵庫高等教育研究』4, 2021年3月

福留東土「市民の精神的自由と学問の自由」『兵庫大学ニューズレター』, 2021年3月

福留東土・栗原郁太・水野貴子・井芹俊太郎・寺崎昌男「大学経営人材育成における大学院教育の役割」『大学教育学会誌』42 (2), 2020年12月, pp.83-87.

福留東土「アメリカにおける大学教育改革批判」『IDE・現代の高等教育』625, 2020年11月, pp.23-28.

福留東土「米国大学のテニユア審査における教育力評価—州立研究大学の事例研究—」『大学評価研究』19, 2020年11月, pp.29-38.

福留東土「アメリカにおける大学院教育改革の現在」IDE・現代の高等教育 622, 2020年7月, pp.21-26.

教育心理学コース

岡田 猛 (教授)

〈書籍〉

K. Knutson, T. Okada, & K. Crowley (Eds.) (2020). *Multidisciplinary approaches to art learning and creativity: Fostering artistic exploration in formal and*

informal settings. Routledge.

Okada, T., Agata, T., Ishiguro, C., & Nakano, Y. (2020). Art appreciation for inspiration and creation. In K. Knutson, T. Okada, & K. Crowley (Eds.) *Multidisciplinary approaches to art learning and creativity: Fostering artistic exploration in formal and informal settings*. 3-21, Routledge.

Shimizu, D., & Okada, T. (2020). Relaxation and Reorganization of “Internal Constraints” in Artistic Creation: Studies Focusing on the Embodiment of Ideas and Interaction with Others in Breakdance. In K. Knutson, T. Okada, & K. Crowley (Eds.) *Multidisciplinary approaches to art learning and creativity: Fostering artistic exploration in formal and informal settings*. 47-63, Routledge.

〈雑誌論文〉

Yokochi, S., & Okada, T. (2020). The process of art-making and creative expertise: An analysis of artists' process modification. *The Journal of Creative Behavior*. <https://doi.org/10.1002/jocb.472>

Ishiguro, C. & Okada, T. (2020). How does art viewing inspire creativity? *The Journal of Creative Behavior*. <http://dx.doi.org/10.1002/jocb.469>

岡田猛・縣拓充 (2020). 芸術表現の創造と鑑賞, およびその学びの支援, *教育心理学年報*, 59, 144-169. (展望論文)

岡田猛 (2020). アートの発想, *学術の動向*, 25, 7, 16-21 (招待論文)

古藤陽・清水大地・岡田猛 (2020). 美術の既有知識の活性化による非美術の対象への美的な解釈の促進, *認知科学*, 27(3), 356-376

〈国際学会発表等〉

Okada, T. (2020). The role of physical process in creativity. *MIC (Marconi Institute for Creativity) Conference 2020*, Bologna, Italy, Virtual, September 2020. **Invited speech.**

Shimizu, D., & Okada, T. (2020). The Interaction between Mind and Body in People's Creativity: Explanation Focusing on Prediction Error, *MIC (Marconi Institute for Creativity) Conference 2020*, Bologna, Italy, Virtual, September 2020.

Sun, J., & Okada, T. (2020). An analysis of actors' internal changes through communication with their partners in acting training, *MIC (Marconi Institute for Creativity) Conference 2020*, Bologna, Italy, Virtual,

September 2020.

Yokochi, S., & Okada, T. (2020). Exploration and reflection in emerging artists' art making. *MIC Conference 2020, MIC (Marconi Institute for Creativity) Conference 2020*, Bologna, Italy, Virtual, September 2020.

Iwai, Y., & Okada, T. (2020). Facilitation of novel creation by revising others' works. *MIC Conference 2020, MIC (Marconi Institute for Creativity) Conference 2020*, Bologna, Italy, Virtual, September 2020.

遠藤利彦(教授)

〈著書〉

遠藤利彦 (2020). 虐待対応に活かし得る発達心理学の知見. 滝川一廣・内海新祐 (編), 子ども虐待を考えるために知っておくべきこと (pp.94-103). 日本評論社.

遠藤利彦 (2021). アタッチメントと社会性・道徳性の発達. 『社会福祉学習双書』編集委員会 (編), 社会福祉学習双書・第11巻・心理学と心理的支援. 全国社会福祉協議会.

秋田喜代美・遠藤利彦 (編). (2021). 発達保育実践政策学研究のフロンランナー. 中央法規.

遠藤利彦 (2021). 進化的視座から見るヒトの父子関係. 数井みゆき (編), 養育者としての男性: 父親の役割とは何か (pp.3-35). ミネルヴァ書房.

遠藤利彦 (2021). 情動制御発達研究の行方を占う. 上淵寿・平林秀美 (編), 情動制御の発達心理学 (pp. 207-225). ミネルヴァ書房.

遠藤利彦 (編著) (2021). 情動発達の理論と支援. 金子書房. (単著執筆: 第1章: 総論: 情動の発達・情動と発達).

〈学術誌等論文〉

遠藤利彦 (2020). アタッチメント: 「非認知」的な心の発達を支え促すもの. 日本教材文化研究財団・研究紀要, 49, 21-27.

遠藤利彦 (2020). 「非認知」の中核なる感情: それが発達にもたらすもの. 発達 (ミネルヴァ書房, 163, 2-8).

遠藤利彦 (2020). アタッチメント研究の現在とこれからの行方. 教育と医学 (慶應義塾大学出版会), 796, 4-11.

石井悠・高橋翠・岡明・遠藤利彦 (2020). 全国の病棟保育に関する実態と課題 第二報. 小児保健研究, 79, 371-379

遠藤利彦 (2020). アタッチメントが拓く子どもの未来 (4): 関係性全体の歪みの中で心身に傷を負ってしまう子どもたち. 児童養護 (全国児童養護施設協議会), 50(4), 32-43.

遠藤利彦 (2020). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(19): 自尊心・自己肯定感と内発的動機付けの発達. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 771, 28-32.

遠藤利彦 (2020). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(20): アタッチメントの生涯発達と世代間伝達. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 772, 24-28.

遠藤利彦 (2020). 「情の理」論: 感情の中に潜む合理なるもの. 臨床心理学, 20(3), 262-265.

遠藤利彦 (2020). アタッチメントと非認知的な心の発達: 親子・家族関係の再構築と養育環境改善. 世界平和研究, 46(3), 16-21.

則近千尋・唐音啓・遠藤利彦 (2021). 幼児期における非認知能力プログラムの近年の動向. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 60, 117-127.

野澤祥子・淀川裕美・菊岡里美・浅井幸子・遠藤利彦・秋田喜代美. (2021). 保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響についての検討. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 60, 545-568.

Okubo, K., Takahashi, M., & Endo, T. (2021). How birth order moderates the negative effects of insecure attachment on anticipatory anxiety regarding parent care. *Current Psychology*, <https://doi.org/10.1007/s12144-021-02314-1>

〈報告書等〉

遠藤利彦 (研究代表) (2021). 保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響に関する調査 報告書vol.1. 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター.

遠藤利彦 (研究代表) (2021). 写真でみる公立図書館・図書室の乳幼児・保護者のためのスペース事例集. 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター.

遠藤利彦 (研究代表) (2020). 保育・幼児教育施設における『絵本に関する調査』集計結果速報版. 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター.

〈エッセイ・雑誌記事・講演録等〉

遠藤利彦 (2020). 「触れ合う」「集う」は欠かせな

- い：子ども時代の遊びと生活. げんき (エイデル出版), 180, 2-13.
- 遠藤利彦 (2020). 虐待を「マルトリートメント」で理解すると見えてくる. エデュカーレ (臨床育児研究会), 98, 48-54.
- 遠藤利彦 (2020). これからの時代に求められる「非認知能力」とは何か? Sport Japan(JSPO), 49, 7-9.
- 遠藤利彦 (2020). 親子のコミュニケーションと愛着. 母子保健 (公益財団法人母子衛生研究会), 730, 1-4.
- 遠藤利彦 (2020). 未来を生き抜くこころを育てる: アタッチメントと非認知的な心の発達. 子どもの育ち, 親の育ち (前川財団未来教育シンポジウム講演集), 4, 82-113.
- 遠藤利彦 (2020). 家庭と園: 二つの社会的世界に生きる子ども. 幼児教育じほう (全国国公立幼稚園・こども園長会), 令和2年1月号, 4-10.
- 遠藤利彦 (2020). 虐待防止におけるアタッチメントという視点の大切さ. APCA通信 (児童虐待防止協会), 88号.
- 遠藤利彦 (2020). 改めてアタッチメントとは何か. 金子書房Note, 2020年8月号.
- 遠藤利彦・大豆生田啓友 (2020). 対談: 一斉保育 vs. 自由保育. 新・幼児と教育 (小学館), 10 (5), 26-29.
- 遠藤利彦・大豆生田啓友 (2020). 対談: 集団の中でどう育つ? 育てる? 新・幼児と教育 (小学館), 10 (7), 26-29.
- 遠藤利彦 (2021). コロナ禍の状況が子どもの発達に及ぼす影響. 保育の友 (全国社会福祉協議会) 2021年2月号増刊.
- 遠藤利彦 (2021). 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達 (1): そもそも, アタッチメントとは何か. 静私幼だより (静岡県私立幼稚園振興協会), 191 (1).
- 遠藤利彦 (2021). 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達 (2): 非認知的な心の力とは何か. 静私幼だより (静岡県私立幼稚園振興協会), 191 (2).
- 遠藤利彦 (2021). 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達: ウィズ・コロナ, アフター・コロナを見据えて. 保育さいたま 2021, 2-5.
- 遠藤利彦 (2021). 認知能力・非認知能力とは何か? 保育士会だより (全国社会福祉協議会) 302号.
- 遠藤利彦 (2021). 非認知能力を育む揺りかごとしでのアタッチメント. 保育士会だより (全国社会福祉協議会) 303号.
- 遠藤利彦 (2021). アタッチメントの視点から: 大人と子どものコミュニケーション. 母の友 (福音館書店), 815, 19-23.
- 遠藤利彦 (2021). 乳幼児期におけるアタッチメントの重要性と保育者の役割. 東社協保育部会通信, 404, 3-10.
- 井桁容子・遠藤利彦 (2021). 対談「コロナ禍の中で語りたい保育の営み: 変化すること, 守っていくもの」. 子どもの文化, 53 (7), 6-19.
- 遠藤利彦 (2021). 解説: 現代におけるチーム育児の役割とは. これからの幼児教育 (ベネッセ教育総合研究所), 2021春号, 16-21.
- 〈学会発表〉
- 遠藤利彦・篠原郁子・実藤和佳子・山下洋・北川恵「発達の予兆を読むー親子の関係性から占う赤ちゃんの未来ー」(大会企画シンポジウム・企画・座長). 日本赤ちゃん学会第20回学術集会. 2020年9月20日. オンライン開催.
- Anna Huber・北川恵・遠藤利彦「アタッチメント理論をベースにした親子への介入の実践」(Intervention for the parent-child relationship based on attachment theory.) (海外招聘講演・シンポジウム・講演). 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会いしかわ金沢大会. 2020年11月29日.
- 野澤祥子・淀川裕美・遠藤利彦 新型コロナウイルス感染症に関わる保育・幼児教育施設の対応や影響 1ー感染症対策と職員のストレスに焦点をあててー 日本乳幼児教育学会第30回大会. 2020年11月14・15日. オンライン開催.
- 淀川裕美・野澤祥子・秋田喜代美・遠藤利彦 新型コロナウイルス感染症に関わる保育・幼児教育施設の対応や影響 2ーwith コロナ・after コロナの保育に焦点をあててー 日本乳幼児教育学会第30回大会. 2020年11月14・15日. オンライン開催.
- 伊藤大幸・白井利明・安藤寿康・宇佐美慧・遠藤利彦・氏家達夫 「縦断研究は発達の解明にどう貢献するのか」(「発達心理学研究」編集委員会企画シンポジウム・指定討論). 日本発達心理学会第32回大会. 2021年3月29~31日. オンライン開催.
- 上淵寿・平林秀美・篠原郁子・中道圭人・中川威・

遠藤利彦 「情動制御の発達心理学」(会員企画自主シンポジウム・指定討論). 日本発達心理学会第32回大会. 2021年3月29~31日. オンライン開催.

則近千尋・利根川明子・石井佑可子・小松佐穂子・遠藤利彦 情動刺激の作成および複数情動を用いた多面的な情動評定. 日本発達心理学会第32回大会. 2021年3月29~31日. オンライン開催.

出野美那子・飯村周平・遠藤利彦 青年期における友人からの感情の社会化尺度日本語版の作成: 信頼性・妥当性の検討. 日本発達心理学会第32回大会. 2021年3月29~31日. オンライン開催.

李知苑・真田美恵子・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・野澤祥子・遠藤利彦 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査2020 (1): 乳幼児のデジタルデバイスの使用時間と社会情動の発達の縦断的関連について. 日本発達心理学会第32回大会. 2021年3月29~31日. オンライン開催.

唐音啓・真田美恵子・李知苑・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・野澤祥子・遠藤利彦 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査2020 (2): 母親の子育て肯定感と周囲のサポートおよび子どもの社会情緒的能力との関連. 日本発達心理学会第32回大会. 2021年3月29~31日. オンライン開催.

野澤祥子・真田美恵子・李知苑・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・遠藤利彦 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査2020 (3): 夫婦関係と養育行動の父母間の相互関連性に関する縦断的検討. 日本発達心理学会第32回大会. 2021年3月29~31日. オンライン開催.

利根川明子・久保田(河本)愛子・則近千尋・石井佑可子・小松佐穂子・漆紫穂子・遠藤利彦 中・高校生の感情経験と感情知性の相互関係: 3時点の縦断データをを用いた検討. 日本発達心理学会第32回大会. 2021年3月29~31日. オンライン開催.

〈講演等〉

遠藤利彦 招待講演: 今, 子どもと保育を共に考えあう. 保育の質を考えあうシンポジウム(保育の質を考えあうシンポジウム実行委員会: オンライン開催). 2020年6月13日.

遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 大阪市私立保育連盟

講演会(大阪市立東成区民センター). 2020年7月10日.

遠藤利彦 招待講演: 幼児教育におけるアタッチメントの重要性. 東京都特別区幼児教育講演会(東京区政会館). 2020年7月27日.

遠藤利彦 招待講演: 関わりの難しい親と子の理解と対応: アタッチメントの視点から. 児童虐待防止協会講演会(オンライン開催). 2020年7月29日.

遠藤利彦 基調講演: 今問われる家庭の役割と家庭教育支援の必要性: アタッチメントは育児(人間形成)の原点. 第4回全国地方議員研修会(少子化と家庭教育支援). 2020年8月4日.

遠藤利彦 招待講演・パネルディスカッション: これからの時代に必要な力とは: 乳幼児期から思春期の子育ち・子育て. 第10回茅ヶ崎市響きあい教育シンポジウム(茅ヶ崎市役所コミュニティホール). 2020年8月6日

遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 遠州地区私立幼稚園・こども園協会講演会(掛川パレスホテル). 2020年8月7日.

遠藤利彦 招待講演: アタッチメントを育む保育①. 渋谷区公立保育園講演会(オンライン開催). 2020年9月3日.

遠藤利彦 招待講演: アタッチメントと心の発達. 渋谷区私立保育園講演会(オンライン開催). 2020年9月15日.

遠藤利彦 基調講演: 今, 改めて保育観・子ども観について自己に問いかける: 教育は大人が与えるものという考えからの脱却. 日本保育協会石川県支部研修会(オンライン開催). 2020年9月23日.

遠藤利彦 招待講演: 子どもの発達と保育. 厚生労働省主催保育初任者研修会(ベルサール西新宿). 2020年9月24日.

遠藤利彦 招待講演: 赤ちゃんの発達とアタッチメント: 非認知的な心の育ちと保育者の役割. 名古屋市・名古屋保育士会研修会(オンライン開催). 2020年10月6日.

遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 岐阜県保育研究協議会特別講演(オンライン開催). 2020年10月7日.

遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 川崎市保育士等キャリアアップ研修講演会(オンライン開催). 2020年10

月9日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 日本保育協会横浜支部・横浜市社会福祉協議会合同講演会（横浜市従会館）. 2020年10月13日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 鳥取県東部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等合同講演会（オンライン開催）. 2020年10月23日.

遠藤利彦 招待講演：親と子の情緒的絆：アタッチメントが拓く子どもの未来. 日本助産師会研修会講演（オンライン開催）. 2020年10月24日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 京都市保育士会講演会（オンライン開催）. 2020年10月31日.

遠藤利彦 招待講演：保護者支援・子育て支援. 厚生労働省主催中堅保育者研修会（ベルサール西新宿）. 2020年11月5日.

遠藤利彦 招待講演：コロナ禍におけるアタッチメント. 令和2年度・福祉ビジョン21世紀セミナー：ウィズ・コロナ時代の社会福祉を展望する～（全国社会福祉協議会）（オンライン開催）. 2020年11月10日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 杉並区保育研修講演会（杉並区役所）. 2020年11月10日.

遠藤利彦 招待講演：発達臨床の視座から見るアタッチメント. 横浜市児童相談所研修講演会（横浜市北部児童相談所）. 2020年11月13日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 掛川市・かけがわ乳幼児教育未来学会特別講演会（大日本報徳社講堂）. 2020年11月17日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントを育む保育②. 渋谷区公立保育園講演会（オンライン開催）. 2020年11月19日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントが育む子どもの心と身体. 子育て支援者のためのだっことおんぶの大勉強会2020（オンライン開催）. 2020年11月22日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 杉並区保育施設長研修講演会（杉並区役所）. 2020年11月27日.

遠藤利彦 基調講演：生涯発達の礎をなすアタッチメント. 2020年・重度障がい者社会支援フォーラ

ム（立教大学）. 2020年11月28日.

遠藤利彦 招待講演：コロナ禍における子どものアタッチメントと心の発達. 東京都私立幼稚園PTA連合会教養講座（オンライン開催）. 2020年12月2日.

遠藤利彦 招待講演：子育て「ち」支援につながる子育て「て」支援を. 令和2年度企業主導型保育事業施設長研修講演会（オンライン開催）. 2020年12月5日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 名古屋市幼児教育研修会（ウィルあいち・ウィルホール）. 2020年12月8日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期のアタッチメントと保育者の役割. 藤沢市保育研究講演会（オンライン開催）. 2020年12月9日.

遠藤利彦 招待講演：発達臨床の視座から見るアタッチメント. 北区特別支援教育コーディネーター研修会（北区滝野川西ふれあい館）. 2020年12月10日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 令和2年度焼津市乳幼児教育研修会（講演会）（オンライン開催）. 2020年12月19日.

遠藤利彦 招待講演：『発達保育実践政策学』が目指すところ：日本の保育の現状と課題も含め. 中国全国早期教育産学官連携同盟結成大会（中国人民大学国学館：オンライン参加）. 2020年12月19日.

遠藤利彦 基調講演：子育て・子育ての基本に立ち返る：アタッチメントと「非認知」－感情に潜む賢さ. 日本保育協会石川県支部研修会（オンライン開催）. 2020年12月22日.

遠藤利彦 基調講演：乳児院の可能性と課題. 全国社会福祉協議会・乳児院上級職員セミナー（オンライン開催）. 2020年12月23日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 板橋区保育研修講演会（板橋区グリーンホール）. 2021年1月8日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 杉並区保育施設長研修講演会（杉並区役所）. 2021年1月14日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメント：ウィズ・コロナ、アフター・コロナを見据えて. 埼玉県保育協議会新春研修会講演（オンラ

イン開催) 2021年1月15日.

遠藤利彦 招待講演: アタッチメントから見る乳幼児の発達. 令和2年度・秋田県保育協議会・乳児保育研修会 (オンライン開催). 2021年1月19日.

遠藤利彦 招待講演: 乳幼児の発達とアタッチメント. 鹿児島県保育園協会・乳児保育研修会講演 (オンライン開催). 2021年1月25・26日.

遠藤利彦 招待講演: アタッチメントと子どもの社会性の発達. 岐阜市教育委員会・教育セミナー (オンライン開催). 2021年2月6日.

遠藤利彦 招待講演: 石川県と金沢市の保育・教育・子育て支援の未来を考える. 日本保育協会石川支部メンタルヘルス研修会講演 (オンライン開催). 2021年2月9日.

遠藤利彦 招待講演: 子どもの虐待防止センター: 養育者の関わり方からみるアタッチメント: 施設養護の課題と可能性. 第56回子どもの虐待防止センター主催セミナー (オンライン開催). 2021年2月18日.

遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. キリスト教保育連盟特別講演会 (オンライン開催). 2021年2月26日.

遠藤利彦 話題提供: 科学的な赤ちゃん学から乳児保育の基本を見直す. 第13回・保育の質を考え合うシンポジウム (オンライン開催). 2021年3月13日.

遠藤利彦 招待講演: コロナ禍による子どものアタッチメント形成への影響と支援. 全国社会福祉協議会・令和2年度・経営者セミナー (オンライン開催). 2021年3月22日.

遠藤利彦 基調講演: 乳幼児期におけるアタッチメントの重要性と保育者の役割. 第64回・東京都保育研究大会 (オンライン開催). 2021年3月23日.

遠藤利彦 記念講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会・第36回教員研修大会 (盛岡グランドホテル). 2021年3月24日.

遠藤利彦 基調講演: 乳幼児期におけるアタッチメントの重要性と保育者の役割. 第63回大阪府私立幼稚園教育研究大会 (オンライン開催). 2021年3月25日.

遠藤利彦 招待講演: 非認知的な心の発達と教育. 日本学校心理士会埼玉支部研修講演会 (オンライン開催). 2021年3月27日.

岡田 謙 介 (准教授)

〈著書〉

岡田謙介 (2021). 「ウィルクスのラムダ」など22項目. 子安増生・丹野義彦・箱田裕司 (監修) 『有斐閣 現代心理学辞典』, 有斐閣. 総頁数22.

〈雑誌論文〉

Bunji, K. & Okada, K. (2021). Linear ballistic accumulator item response theory model for multidimensional multiple-alternative forced-choice measurement of personality. *Multivariate Behavioral Research*, Online Ahead of Print. <https://doi.org/10.1080/00273171.2021.1896351>

Okada, K. & Bunji, K. (2021). Increase of reliability by incorporating response time into the paired-comparison psychological measurement. *Behaviormetrika*, 48, 169-177. <https://doi.org/10.1007/s41237-020-00109-5>

Yamaguchi, K., & Okada, K. (2020). Variational Bayes inference algorithm for the saturated diagnostic classification model. *Psychometrika*, 85, 973-995. <https://doi.org/10.1007/s11336-020-09739-w>

清水佑輔・岡田謙介・唐沢かおり (2020). 愛好家サブカテゴリーの顕現化によるギャンブラーへの潜在的態度の肯定化. 実験社会心理学研究, 60(2), 113-124. <https://doi.org/10.2130/jjesp.2008>

分寺杏介・岡田謙介 (2020). 現代的なパーソナリティ測定のためのベイズ統計モデリング. 社会と調査, 25, 22-30.

岡田謙介 (2020). ベイズ統計学の考え方. 社会と調査, 25, 5-13.

菱山完・伊藤徹郎・岡田謙介 (2020). 問題の解き直しの学業成績への効果: 階層線形モデルによるビッグデータの分析. 行動計量学, 47(2), 153-160. <https://doi.org/10.2333/jbhmk.47.15347>

丹亮人・岡田謙介 (2020). 多値アトリビュートにおける認知診断の正確度へのQ行列の誤設定の影響: アトリビュートの階層性がある場合の検討. 行動計量学, 47(2), 1-15. <https://doi.org/10.2333/jbhmk.47.211>

Yamaguchi, K., & Okada, K. (2020). Hybrid cognitive diagnostic model. *Behaviormetrika*, 47, 397-518. <https://doi.org/10.1007/s41237-020-00111-x>

Yamaguchi, K., & Okada, K. (2020). Variational Bayes inference for the DINA model. *Journal of Educational and Behavioral Statistics*, 45(5), 569-597. <https://doi.org/10.3102/1076998620911934>

Iijima, Y., Okumura, Y., Yamasaki, S., Ando, S., Okada, K., Koike, S., Endo, K., Morimoto, Y., Williams, A., Murai, R., Tanaka, S. C., Hiraiwa-Hasegawa, M., Kasai, K. & Nishida, A. (2020). Assessing the hierarchy of personal values among adolescents: A comparison of rating scale and paired comparison methods. *Journal of Adolescence*, 80, 53-59. <https://doi.org/10.1016/j.adolescence.2020.02.003>

Bunji, K. & Okada, K. (2020). Joint modeling of the two-alternative multidimensional forced-choice personality measurement and its response time by a Thurstonian D-diffusion item response model. *Behavior Research Methods*, 52, 1091-1107. <https://doi.org/10.3758/s13428-019-01302-5>

〈招待講演〉

岡田謙介 (2020年12月)「情報教育の指導と授業改善に役立つベイズ統計」日本教育工学会 第19回情報教育研究会

岡田謙介 (2020年11月)「人間計測の基礎」応用脳科学コンソーシアム

岡田謙介 (2020年10月)「『 $p < 0.05$ 』からATOMへ：不確実性を受容する統計的方法」日本消費者行動研究学会 第61回コンファレンス 基調講演

岡田謙介 (2020年9月)「ベイズファクターによるモデル評価」第4回ヒト脳イメージング研究会

岡田謙介 (2020年5月)「心理学におけるベイズ統計モデリング：再現性問題と認知モデル」日本法社会学会2020年度学術大会 ミニシンポジウム

学会発表やその他の業績等の情報はResearchmap (<https://researchmap.jp/kensukeokada>) に記載しています。

清 河 幸 子 (准教授)

〈著書〉

清河幸子 (分担執筆)『モデルを用いた心の理解 (認知心理学)』, 金井篤子 (編)『心理臨床実践のための心理学』, ナカニシヤ出版, 2021, pp.29-38.

〈雑誌論文〉

清 河 幸 子 (共 著) “I’ll give it to you if it’s such a ‘small’ amount”: Prosocial behavior based on delay discounting and micro-donation” (栗 田 真 帆 氏, 五十嵐祐氏との共著)『認知科学』第27巻, 2020, pp. 345-355.

清河幸子 (共著)「共通点の探索による『目立たない』知識の活性化の促進」(山川真由氏との共著)『認

知科学』第27巻, 2020, pp.527-239.

〈学会発表〉

清河幸子 (共著)「援助者のコストに対する知覚は援助要請行動を抑制する」(古橋健悟氏, 五十嵐祐氏との共著) 電子情報通信学会ヒューマン情報処理 (HIP) 研究会, 2020年5月, オンライン開催.

清河幸子 (共著)「音楽聴取による悲しみの緩和——反すう特性と時間経過に着目して——」(加藤里実氏との共著) 電子情報通信学会ヒューマン情報処理 (HIP) 研究会, 2020年5月, オンライン開催.

清河幸子 (共著)「ダンスを通じた身体表現が心理的側面に及ぼす影響——自己概念のポジティブな変化——」(酒井美鳥氏との共著) 電子情報通信学会ヒューマン情報処理 (HIP) 研究会, 2020年5月, オンライン開催.

清河幸子 (共著)「自己呈示の内在化は自己欺瞞と自己呈示効力感の産物か」(上田卓介氏との共著) 電子情報通信学会ヒューマン情報処理 (HIP) 研究会, 2020年5月, オンライン開催.

清河幸子 (共著)「試行履歴の情報源が問題解決に及ぼす影響——自己と他者の比較から——」(石原潤氏との共著) 電子情報通信学会ヒューマン情報処理 (HIP) 研究会, 2020年5月, オンライン開催.

清河幸子 (共著)「制御焦点と注意の向け方が『あがり』に与える影響」(小笠原香苗氏との共著) 電子情報通信学会ヒューマン情報処理 (HIP) 研究会, 2020年5月, オンライン開催.

清河幸子 (共著)「他者のパフォーマンス視聴時の注意の向け方が自身の『あがり』に与える影響」(小笠原香苗氏との共著) 日本感情心理学会第28回大会, 2020年6月, オンライン開催.

清河幸子 (共著) “A meta-analytic review of verbal overshadowing effect on insight problem solving using Bayes factors”. (Dienes, Z. 氏との共著) The 42nd Annual Virtual Meeting of Cognitive Science Society, 2020年7月, オンライン開催.

清河幸子 (共著) “How people examine self/other’s learning history”. (石原潤氏との共著) The 42nd Annual Virtual Meeting of Cognitive Science Society, 2020年7月, オンライン開催.

清河幸子 (共著) “Commonality search as a way of facilitating creative thinking: A comparison with the alternative categorization task”. (山川真由氏との共

- 著) The 42nd Annual Virtual Meeting of Cognitive Science Society, 2020年7月, オンライン開催.
- 清河幸子(共著)「関連性の低い対象間の共通点探索プロセス——カテゴリ判断課題との関連による検討——」(山川真由氏との共著)日本認知科学会第37回大会, 2020年9月, オンライン開催.
- 清河幸子(共著)「援助要請者が知覚する援助者のコストが援助者選択に及ぼす影響」(古橋健悟氏・五十嵐祐氏との共著)日本心理学会第84回大会, 2020年9月, オンライン開催.
- 清河幸子(共著)「追加報酬の遅延による主観的価値の低下が寄付に及ぼす影響」(栗田真帆氏・五十嵐祐氏との共著)日本心理学会第84回大会, 2020年9月, オンライン開催.
- 清河幸子(共著)「自己呈示の内在化は自己欺瞞の産物か——自己欺瞞特性と自己呈示効力感に着目して——」(上田皐介氏との共著)日本心理学会第84回大会, 2020年9月, オンライン開催.
- 清河幸子(共著)「人を『騙す』にはまず自分を『騙せ』——自己欺瞞特性が外向性の他者評価に与える影響——」(上田皐介氏との共著)日本社会心理学会第61回大会, 2020年11月, オンライン開催.
- 清河幸子(共著)“Why do people switch helpers?”(古橋健悟氏との共著) The 22nd Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2021年2月, オンライン開催.
- 清河幸子(共著)“Self-directed attention prevents “failure contagion” during a speech”. (小笠原香苗氏との共著) The 22nd Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2021年2月, オンライン開催.
- 清河幸子(共著)“Self-deceivers give their intended impressions both to others and themselves successfully”. (上田皐介氏との共著) The 22nd Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2021年2月, オンライン開催.
- 一 郎氏との共編) ミネルヴァ書房, 2020総頁数175.
- 下山晴彦(監修), 『認知行動療法絵本シリーズ1 こわいみちまわりみち』ほるぷ出版, 2020, 総頁数36.
- 下山晴彦(監修), 『認知行動療法絵本シリーズ2 おかさんにおはなしたいこと』ほるぷ出版, 2021, 総頁数36.
- 下山晴彦(監修), 『認知行動療法絵本シリーズ3 ダメダメデー』ほるぷ出版, 2021, 総頁数36.
- 下山晴彦(監修), 『認知行動療法絵本シリーズ4 ふあんくんの気持ち』ほるぷ出版, 2021, 総頁数36.
- 下山晴彦(監修), 『認知行動療法絵本シリーズ5 “めんどくさい”はSOS』ほるぷ出版, 2021総頁数188.
- 〈雑誌論文〉
- Shimoyama, H., (共著). ‘Emotion Regulation and Middle School Adjustment in Japanese Girls: Mediation by Perceived Social Support’. (Kitahara, Y., Mearns, J., 氏との共著) “*Japanese Psychological Research*”, 62(2), 2020, pp.138–150, doi: 10.1111/jpr.12280
- Shimoyama, H. (共著). ‘Cyber bullying victimization and adolescent mental health: The differential moderating effects of intrapersonal and interpersonal emotional competence’ (Urano, Y., Takizawa, R., Ohka, M., Yamasaki, H. 氏との共著), “*Journal of Adolescence*”, 80, 2020, pp.182-191
- 下山晴彦(共著), 「医療領域での多職種協働に関わる臨床心理士を対象とした教育課題の検討」(遠藤麻美・中野美奈・日下華奈子氏との共著), 『精神療法』, 46(5), 2020, pp.669-681.
- 下山晴彦(共著)「うつ病に対するインターネットを介した情報提供による援助要請の促進可能性」(シュレンペル レナ・菅沼慎一郎氏との共著), 『心理臨床学研究』, 37(6), 2020, pp.599-609.
- 下山晴彦(共著), 「公認心理師資格の取得へ向けた認識調査—医療保健領域で働く臨床心理士に焦点をあてて—」(遠藤麻美氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 59, 2020, pp.373-380.
- 下山晴彦(共著). 「Non-help-seekersから援助要請を引き出すには—心理的特徴に寄り添った施策の提案に向けて—」(大橋英永・内村慶士・佐野真莉奈・高堰仁美氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 44, 2021, pp.32-40.

臨床心理学コース

下山晴彦(教授)

〈著書〉

- 下山晴彦(編著), 『公認心理師スタンダードテキストシリーズ1 公認心理師の職責』(慶野遥香氏との共編), ミネルヴァ書房, 2020, 総頁数188.
- 下山晴彦(編著) (2020), 『公認心理師スタンダードテキストシリーズ3 臨床心理学概論』(石丸徑

下山晴彦（共著），「発達障害児のいじめ防止のためのICTツール開発研究—応用行動分析を活用して—」（一柳貴博・高堰仁美氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科紀要』，60，2020，83-94.

下山晴彦（共著），「感情労働研究についての一考察—既存尺度の整理を通して—」（高藤（竹林）裕美・北原祐理・谷真美華・鈴木拓朗氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』，44，2021，pp.1-8.

下山晴彦（共著），「心理職における「記録」の現状と展望」（田嶋志保・北原祐理・一柳貴博・津田容子氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』，44，2021，pp.9-16.

下山晴彦（共著），「オンライン心理支援におけるワーキングアライアンスの意義について」（蒲東寧・三枝弘幸・井上薫・原田優氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』，44，2021，pp.25-31.

下山晴彦（共著），「ゲイ・バイセクシュアル男性のソーシャルサポートに関する研究の概観と今後の展望」（森孝太・石川千春・柳百合子・松原朋香氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』，44，2021，pp.17-24.

高橋美保（教授）

〈著書〉

高橋美保（分担執筆），「高齢者の心理と社会参加—中高年のライフキャリアのその先を見据えて—」，牧野篤（編），『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装』，東京大学出版会，2020，pp.52-61.

高橋美保（分担執筆），「心理支援の専門職として働くために」，下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫（監修），『公認心理師スタンダードテキストシリーズ1『公認心理士の職責』』，ミネルヴァ書房，2020，pp.40-55.

〈雑誌論文〉

高橋美保（共著），「若手内観面接者の面接者としての困難に関する探索的検討—教育プログラム開発のために—」（李曉茹氏との共著），『内観研究』第26巻第1号，2020，pp.33-45.

高橋美保（共著），「成人の発達障害者を対象とした地域の援助資源を活用するためのプログラム開発」（黒田美保氏・村山光子氏・廣木彩氏・田川薫氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科紀

要』第60巻，pp.45-361.

高橋美保（共著），「コロナ（COVID-19）禍による大学講義のオンライン化にともない，学生間の雑談様式はどのように変化したか—講義前後のやりとりに着目して—」（中山莉子氏・加藤明日花氏・和智遥香氏・野村佳申氏・隅田玲氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』，44，pp.65-73.

〈学会発表〉

高橋美保・黒田美保・田川薫・江浦瑛子・隅田玲・鳥羽翔太・和智遥香（ポスター発表），成人の発達障害者のための地域の援助資源を活用するためのセミナー—今後の発展に向けたパイロット調査— 日本心理臨床学会第39回大会，オンライン，2020

〈シンポジウム〉

高橋美保（企画・司会） 日本コミュニティ心理学会第23回大会大会企画シンポジウム “高齢化社会から考える“コミュニティ”の学際的意味”，2020.

高橋美保（司会・講師） 第6回日本内観学会主催内観研修会“内観面接者の在り方 心構えと役割” 司会・講師，2020.

高橋美保（講師） 東京大学教育学部附属中等教育学校 “チームマインドの体験的理解—部活動から考える” 講師，2020.

能智正博（教授）

〈著書〉

笠井清登・岡ノ谷一夫・能智正博・福田正人（編著）『人生行動科学としての思春期学』，東京大学出版会，2020，総頁数325.

Nochi, M.（分担執筆），“Research ethics from the viewpoint of a Japanese qualitative researcher.” In Barnard, R., & Wang, Y. (Eds.), *Research ethics in second language education: Universal principles, local practices*. London: Routledge, 2020, pp. 128-139.

〈学術論文〉

江刺香奈・眞柄翔太・横山克貴・片山皓絵・広津侑実子・能智正博（共著），「障害児・者とケアする側のコミュニケーション不全は何をもたらすのか」，『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』第43号，2020，pp. 34-41.

新井素子・金智慧・小林良介・佐藤遊馬・五嶋佐和

子・能智正博（共著），「LGBT当事者である大学教職員を取り巻く環境と課題——当事者である大学教員の語りから——」，『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』，第43号，2020，pp. 42-48.

Ihara, Y., Son, D., Nochi, M., & Takizawa, R.（共著），Work-related stressors among hospital physicians: a qualitative interview study in the Tokyo metropolitan area. *BMJ Open*, 2020, 10:e034848.

能智正博（単著），「行為としての『病いの語り』」，『質的心理学フォーラム』第12巻，2020，pp. 76-79.

能智正博（単著），「脳損傷者の『主体性』を考える」，『地域リハビリテーション』第15巻第5号，2020，pp. 284-287.

〈学会発表〉

大瀧玲子・広津侑実子・沖潮満里子・尾見康博・能智正博（口頭発表），「重度障害児・者をケアすることの意味（1）：対話的自己論から福祉援助職の体験を読み解く」，日本質的心理学会第17回大会，オンライン，2020，10月.

広津侑実子・大瀧玲子・沖潮満里子・尾見康博・能智正博（口頭発表），「重度障害児・者をケアすることの意味（2）：対話的自己論から障害者家族の体験を読み解く」日本質的心理学会第17回大会，オンライン，2020，10月.

小林隆司・小川彰・能智正博・藤田真樹・長谷川幹（口頭発表），「脳損傷者の〈主体性〉に関する研究～質問票の開発～」，第30回日本保健科学学会学術集会，東京都立大学／オンライン，2020，10月.

増田司・小川彰・能智正博・藤田真樹・長谷川幹（口頭発表），「脳損傷者の『主体性』を探索するための質問票の開発——予備研究の結果から見えるもの——」，第18回日本神経理学療法学会学術大会，京都／オンライン，2020，11月.

長谷川幹・小林隆司・能智正博・藤田真樹・増田司（ポスター），「脳損傷者の〈主体性〉に関する研究（Ⅰ）——質問票の開発」，日本リハビリテーション医学会第5回秋季大会，神戸／オンライン，2020，11月.

能智正博・小川彰・小林隆司・藤田真樹・長谷川幹（ポスター），「脳損傷者の〈主体性〉に関する研究（Ⅱ）——質問票に基づく変容過程の探索」，日本リハビリテーション医学会第5回秋季大会，

神戸／オンライン，2020，11月.

Nochi, M.（口頭発表）“How did a blind child begin understanding her ‘blind self’?: A longitudinal analysis of conversation between her and adults”, *14th International Conference on Discourse Analysis*, Online. 2020, 12月.

能智正博・広津侑実子・片山皓絵・江刺香奈・薛海升・望月登志子・鳥居修晃（口頭発表），「先天性盲児における〈空間〉の発達過程——歩く行為に注目した質的な映像分析から——」，日本発達心理学会第32回大会，オンライン，2021，3月.

〈講演・講座・シンポジウム〉

能智正博（講師），「質的研究入門——データ分析のはじめの一步」，文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」東京大学 職域・地域架橋型「価値に基づく支援者育成」C-1 職域架橋連携コース，オンライン，2020，9月.

春日秀朗・神崎真実・サトウタツヤ・安田裕子・田垣正晋・能智正博・西村ユミ・ハツ塚一郎（話題提供），「質的研究法マッピングの世界を語る」，日本質的心理学会第17回大会，オンライン，2020，10月.

伊藤哲司・ド-スニイ・ハン-ギュソク・能智正博（話題提供），「なぜいま質的研究の日韓交流が求められるのか——ソウル大会に向けた展望と期待」，日本質的心理学会第17回大会，オンライン，2020，10月.

勝野正章・鶴田清司・田中昌弥・宮川健郎・河野順子・能智正博（ファシリテーター），「『ごんぎつね』がひらく，まなびの未来」，みんなで『ごんぎつね』を学びあう会オンラインシンポジウム，オンライン，2021，3月.

〈その他〉

能智正博，「受傷アスリートにとっての回復（リハビリ）——『復帰すること』の意味をめぐって」，新学術領域研究「脳・生活・人生からの統合的理解にもとづく思春期からの主的価値発展学」NEWS LETTER 第4号，2020，p. 19.

能智正博，「書評『〈私〉の誕生 生後2年目の奇跡Ⅰ・Ⅱ』（麻生武著，東京大学出版会）」，『心と社会』第51巻第4号，2020，pp. 106-107.

能智正博，「気合について」，『赤門合気道』第61巻，2020，pp. 49-51.

滝 沢 龍 (准教授)

〈著書〉

滝沢龍 (編著) 『公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法]』 (石井秀宗, 氏との共編), 医歯薬出版株式会社, 2021, 総頁数239.

〈雑誌論文〉

Ihara Y, Kurosawa T, Matsumoto T, Takizawa R. (2021). The Effectiveness of Preventative Group Cognitive-Behavioral Interventions on Enhancing Work Performance-related Factors and Mental Health of Workers: A Systematic Review. *Current Psychology*. <https://doi.org/10.1007/s12144-021-01562-5>

Ihara Y, Son D, Nochi M, Takizawa R. (2020). Work-related stressors among hospital physicians: A qualitative interview study in the Tokyo metropolitan area. *BMJ open*, 10: e034848.

Urano Y*, Takizawa R*, Ohka M, Yamasaki H, Shimoyama H. (2020). Cyber-bullying victimization and adolescent mental health: The differential moderating effects of intrapersonal and interpersonal emotional competence. *Journal of Adolescence*. 80: 182-191.

Ando J, Fujisawa KK, Hiraishi K, Shikishima C, Kawamoto T, Nozaki M, Yamagata S, Takahashi Y, Suzuki K, Someya Y, Ozaki K, Deno M, Tanaka M, Sasaki S, Toda T, Kobayashi K, Sakagami M, Okada M, Kijima N, Takizawa R, Murayama K. (2020). Psychosocial twin cohort studies in Japan: The Keio Twin Research Center (KoTReC). *Twin Research and Human Genetics*, 1-6.

井原祐子, 黒沢拓夢, 滝沢龍. (2021). 社会人向けセルフケア研修プログラムの開発に向けて—集団認知行動療法を基盤としたレジリエンス・スキル・トレーニング— 東京大学大学院教育学研究科紀要, 60, 13-22.

高橋史也, 西野悠太, 安達滉一郎, 黒沢拓夢, 井原祐子, 滝沢龍 (2021). 情報通信技術 (ICT) を利用したメンタルヘルスケアの最新動向. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 44, 82-88.

橋本里奈, 松本珠美, 石川智子, 下田茉莉子, 金里紗, 西野悠太, 滝沢龍. (2021). 対人関係が心身の健康に及ぼす影響に関するバイオマーカー研究の概観. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学

コース紀要, 44, 89-98.

石川智子, 松本珠美, 橋本里奈, 黒沢拓夢, 滝沢龍. (2021). ワーク・ファミリー・コンフリクトがメンタルヘルスに与える影響—日本国内と海外の動向に着目して—. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 44, 78-81.

滝沢龍. (2020). いじめ体験の長期的な影響を科学する. こころの元気+, 14 (8), 16-18.

井原祐子, シュレンベル レナ, 孫大輔, 滝沢龍. (2020). 病院勤務医のメンタルヘルスに関する援助要請の障壁 産業精神保健, 28 (4), 349-357

黒沢拓夢, 井原祐子, 滝沢龍. (2020). 労働者のメンタルヘルスと生産性 —presetecism研究の概観— 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 43, 78-84.

安達滉一郎, 中牟田春美, 滝沢龍. (2020). 大学生を対象としたマインドフルネスに基づく心理教育プログラムの概観 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 43, 85-92.

中牟田春美, 安達滉一郎, 西野悠太, 滝沢龍. (2020). 児童期・青年期の心理教育の現状と今後の課題 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 43, 93-100.

下田茉莉子, 松本珠美, 滝沢龍. (2020). バイオフィードバックによる心理的指標への影響の概観と展望 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 43, 101-108.

金里紗, 石井礼花, 滝沢龍. (2020). 周産期支援についての現状と課題——児童虐待防止の観点から—— 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 43, 109-116.

松本珠美, 下田茉莉子, 井原祐子, 滝沢龍. (2020). 親密な関係性と個人のwell-beingの関係の検討 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 43, 117-124.

身体教育学コース

山 本 義 春 (教授)

〈論文〉

Qian, K., T. Koike, K. Yoshiuchi, B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. Can appliances understand the behaviour of elderly via machine learning? A feasibility study. *IEEE Internet of Things Journal* 8: 8343-8355, 2021.

Qian, K., C. Janott, M. Schmitt, Z. Zhang, C. Heiser, W. Hemmert, Y. Yamamoto, and B. W. Schuller. Can

- machine learning assist locating the excitation of snore sound? A review. *IEEE Journal of Biomedical and Health Informatics* 25: 1233-1246, 2021.
- Foo, J. C., L. Sirignano, N. Trautmann, J. Kim, S. H. Witt, F. Streit, J. Frank, L. Zillich, A. Meyer-Lindenberg, U. W. Ebner-Priemer, C. Schilling, M. Schredl, Y. Yamamoto, M. Gilles, M. Deuschle, and M. Rietschel. Association of locomotor activity during sleep deprivation treatment with response. *Frontiers in Psychiatry* 11: 688-1-9, 2020.
- Dong, F., K. Qian, Z. Ren, A. Baird, X. Li, Z. Dai, B. Dong, F. Metze, Y. Yamamoto, and B. W. Schuller. Machine listening for heart status monitoring: introducing and benchmarking HSS - the Heart Sounds Scenzhen Corpus. *IEEE Journal of Biomedical and Health Informatics* 24: 2082-2092, 2020.
- Qian, K., X. Li, H. Li, S. Li, W. Li, Z. Ning, S. Yu, L. Hou, G. Tang, J. Lu, F. Li, S. Duan, C. Du, Y. Cheng, Y. Wang, L. Gan, Y. Yamamoto, and B. W. Schuller. Computer audition for healthcare: opportunities and challenges. *Frontiers in Digital Health* 2: 5-1-4, 2020.
- Qian, K., B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. Recent advances in computer audition for diagnosing COVID-19: An overview. In: *Proceedings of LifeTech*, pp. 185-186, Nara, Japan, March 2021.
- Han, J., K. Qian, M. Song, Z. Yang, Z. Ren, S. Liu, J. Liu, H. Zheng, W. Ji, T. Koike, X. Li, Z. Zhang, Y. Yamamoto, and B. W. Schuller. An early study on intelligent analysis of speech under COVID-19: Severity, sleep quality, fatigue, and anxiety. In: *Proceedings of INTERSPEECH*, pp. 4946-4950, 2020.
- Koike, T., K. Qian, B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. Learning higher representations from pre-trained deep models with data augmentation for the ComParE 2020 challenge mask task. In: *Proceedings of INTERSPEECH*, pp. 2047-2051, 2020.
- Koike, T., K. Qian, Q. Kong, M. D. Plumbley, B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. Audio for audio is better? An investigation on transfer learning models for heart sound classification. In: *Proceedings of 42nd Annual International Conference of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2020)*, pp. 74-77, 2020.
- Wang, Y., K. Qian, J. Nelson, H. Yagi, A. Kishi, K. Morita, and Y. Yamamoto. Can affective computing better the mental status of the electronic games player? A perspective. In: *Proceedings of the 2nd Global Conference on Life Sciences and Technologies (LifeTech)*, pp. 366-367, Kyoto, Japan, March, 2020.
- 清水悦子, 中村亨, 山本義春. 育児期における母親の心身の健康維持を目的とした生体リズム調整手法の開発. 発達保育実践政策学研究所のフロンティア. 第3巻, 乳幼児の発達科学. 秋田喜代美, 遠藤利彦編. 中央法規, 東京, 2021, pp153-179.
- 多賀 厳太郎 (教授)**
- 〈論文〉
- S. Sasai, T. Koike, S. K. Sugawara, Y. H. Hamano, M. Sumiya, S. Okazaki, H. K. Takahashi, G. Taga, N. Sadato: Frequency-specific task modulation of human brain functional networks: a fast fMRI study. *Neuroimage* 224, 117375, 2021
- 〈和文雑誌〉
- 多賀厳太郎: 小林登先生を追悼する. ベビーサイエンス, 19, 6, 2020
- 多賀厳太郎: 小西行郎先生を追悼する. ベビーサイエンス, 19, 18-22, 2020
- 〈書籍 (共著)〉
- 新屋裕太, 藤井進也, 奥絢介, 渡辺はま, 多賀厳太郎: 乳児の運動計測技術による発達理解とその未来. 「発達保育実践政策学研究所のフロンティア 第3巻: 乳幼児の発達科学」中央法規出版, 2021
- 〈その他〉
- Yuta Shinya, Kensuke Oku, Hama Watanabe, Gentaro Taga, Shinya Fujii: Heartbeat of Infant Drummer: Allostatic Regulation of Cardiovascular System in Auditory-Motor Integration at Three-Month-Old, The International Congress of Infant Studies (virtual congress) July 6-9, 2020
- 多賀厳太郎, 渡辺はま, 儀間裕貴: データ駆動力学系を用いた乳児の自発運動における個性の検出, 日本赤ちゃん学会第20回学術集会, オンライン, 2020.9.19
- 多賀厳太郎: 胎児・乳児期における脳機能と運動の発達, 生理学研究所研究会2020「幼・小児の成長期における脳機能と運動の発達に関する多領域共同研究」, オンライン, 2020.11.12
- 多賀厳太郎: ヒト乳児期の光脳イメージング研究の発展と展望, 東京都医学総合研究所セミナー, オンライン, 2021.1.22 (招待)

佐々木 司 (教授)
 (原著 (査読あり))

Shunsuke Tanahashi S, Tanii H, Konishi Y, Otowa T, Tochigi M, Sasaki T, Okazaki Y, Kaiya H, Okada M. (2020) Association of Serotonin Transporter Gene (5-HTTLPR/rs25531). Polymorphism with comorbidities of panic disorder. *Neuropsychobiology* doi.org/10.1159/000512699.

西田明日香, 山口智史, 東郷史治, 佐々木司. (2020) 相談相手の数と不安・抑うつ症状の関連を調査した横断・縦断的研究のレビュー. *不安症研究* 12(1):16-26, doi.org/10.14389/jsad.12.1_16.

Kimura H, Nawa Y, Mori D, Kato H, Toyama M, Furuta S, Yu Y, Ishizuka K, Kushima I, Aleksic B, Arioka Y, Morikawa M, Okada T, Inada T, Kaibuchi K, Ikeda M, Iwata N, Suzuki M, Okahisa Y, Egawa J, Someya T, Nishimura F, Sasaki T, Ozaki N. (2020) Rare Single-Nucleotide DAB1 Variants and their Contribution to Schizophrenia and Autism Spectrum Disorder Susceptibility. *Human Genome Variation* 7(1), doi.org/10.1038/s41439-020-00125-7.

Morishima R, Yamasaki S, Ando S, Shimodera S, Ojio Y, Okazaki Y, Kasai K, Sasaki T, Nishida A. (2020) Long and short sleep duration and psychotic symptoms in adolescents: findings from a cross-sectional survey of 15 786 Japanese students *Psychiatry Res* 293:113440, doi.org/10.1016/j.psychres.2020.113440.

Ikegame T, Bundo M, Okada N, Murata Y, Koike S, Sugawara H, Saito T, Ikeda M, Owada K, Fukunaga M, Yamashita F, Koshiyama D, Natsubori T, Iwashiro N, Asai T, Yoshikawa A, Nishimura F, Kawamura Y, Ishigooka J, Kakiuchi C, Sasaki T, Abe O, Hashimoto R, Iwata N, Yamasue H, Kato T, Kasai K, Iwamoto K (2020) Promoter activity-based case-control association study of SLC6A4 highlighted hypermethylation and altered amygdala volume of male patients with schizophrenia. *Schizophrenia Bull* doi.org/10.1093/schbul/sbaa075.

Yamaguchi S, Ojio Y, Foo JC, Michigami E, Usami S, Fuyama T, Ando S, Togo F, Sasaki T (2020) A quasi-cluster randomized controlled trial of a classroom-based mental health literacy educational intervention to promote knowledge and help-seeking/helping behavior in adolescents. *J Adolescence* 82: 58-66, doi.org/10.1016/j.adolescence.2020.05.002.

日下桜子, 東郷史治, 佐々木司 (2020) 子どもの精神科治療を促進・阻害する親に関わる要因. *不安症研究* 12(1):2-15, doi.org/10.14389/jsad.12.1_2.

Yamasaki M, Makino T, Khor S-S, Toyoda H, Miyagawa T, Liu X, Kuwabara H, Kano Y, Shimada T, Sugiyama T, Nishida H, Sugaya N, Tochigi M, Otowa T, Okazaki Y, Kaiya H, Kawamura Y, Miyashita A, Kuwano R, Kasai K, Tanii H, Sasaki T, Honda M, Tokunaga K. (2020) Sensitivity to gene dosage and gene expression affects genes with copy number variants observed among neuropsychiatric diseases. *BMC Medical Genomics*. 13(1), doi.org/10.1186/s12920-020-0699-9.

Ojio Y, Kishi A, Sasaki T, Togo F (2020) Association of depressive symptoms with habitual sleep duration and sleep timing in junior high school students. *Chronobiology International* 37(6) : 877-886, doi: 10.1080/07420528.2020.1746796.

Murata Y, Ikegame T, Koike S, Saito T, Ikeda M, Sasaki T, Iwata N, Kasai K, Bundo M, Iwamoto K. Global DNA hypomethylation and its correlation to the betaine level in peripheral blood of patients with schizophrenia. *Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry* 99: 109855, doi: 10.1016/j.pnpbp.2019.109855.

〈依頼原稿など (査読無し)〉

佐々木司 (2020) COVID-19流行で養護教諭が知っておくべき知識と覚悟—新しい生活様式に見られる心の状態の理解と対応. 三木とみ子, 岡部信彦 (編集代表) これで解決! 養護教諭のための新型コロナウイルス感染症対策Q&A. ぎょうせい (東京).

佐々木司 (2020) コロナ流行下での学生・教員のストレスと不安. *精神科* 37(6): 662-666.

佐々木司 (2020) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行は子供と教員の生活にどのような変化をもたらしたか: メンタルヘルスの視点から. *日本健康相談活動学会誌* 15(2): 139-142.

佐々木司 (2020) 「心の健康」教育: いつ, なにを, どのように教える. *健* 49 (2) (通巻572号) :16-38.

佐々木司, 大澤功, 鈴江毅 (2020) 英文論文を書こう! でも, まずは日本語から (その1). (国際交流委員会企画—学校保健の新知見を学ぶ 第12回). *学校保健研究* 61(6): 372-75.

東郷史治(教授)

〈著書〉

吉崎貴大, 東郷史治. 「働き盛りの健康維持増進に対する時間栄養学の可能性」, 『時間栄養学. 時計遺伝子, 体内時計, 食生活をつなぐ』, 柴田重信編, 化学同人, pp.168-174, 2020.

東郷史治. 「睡眠のメカニズムと認知機能」, 『認知症 plus 予防教室』, 金森雅夫編, 日本看護協会出版会, pp.100-106, 2020.

〈雑誌論文〉

Huang WC, Lin CY, Togo F, Lai TF, Liao Y, Park JH, Hsueh MC, Park H. (共著) 「Association between objectively measured sleep duration and physical function in community-dwelling older adults」, 『Journal of Clinical Sleep Medicine』, 17, pp.515-520, 2021.

Yamaguchi S, Ojio Y, Foo JC, Michigami E, Usami S, Fuyama T, Onuma K, Oshima N, Ando S, Togo F, Sasaki T. (共著) 「A quasi-cluster randomized controlled trial of a classroom-based mental health literacy educational intervention to promote knowledge and help-seeking/helping behavior in adolescents」, 『Journal of Adolescence』, 82, pp.58-66, 2020.

Ojio Y, Kishi A, Sasaki T, Togo F. (共著) 「Association of depressive symptoms with habitual sleep duration and sleep timing in junior high school students」, 『Chronobiology International』, 37, pp.877-886, 2020.

吉崎貴大, 東郷史治. (共著) 「ライフステージと時間栄養学」, 『アグリバイオ』, 4, pp.28-32, 2020.

吉崎貴大, 東郷史治. (共著) 「シフトワーカーの食事・栄養」, 『臨床栄養』, 136, pp.323-333, 2020.

森田賢治(准教授)

〈雑誌論文〉

Kenji Morita & Asako Mitsuto Nagase. Caution in exploring the effects of distant past outcomes on sequential choices. *Neuroscience Research* 156: 159-164. doi.org/10.1016/j.neures.2019.12.011. (2020)

Sai Tanimoto, Masashi Kondo, Kenji Morita, Eriko Yoshida, & Masanori Matsuzaki. Non-action learning: saving action-associated cost serves as a covert reward. *Frontiers in Behavioral Neuroscience* 14: 141. doi.org/10.3389/fnbeh.2020.00141. (2020)

加藤郁佳 & 森田賢治. 力学系の考え方一導入的紹介とドーパミン・強化学習に関わる研究への適用例. *BRAIN and NERVE* 72巻11号 1275-1282. doi.org/10.11477/mf.1416201679. (2020)

岸哲史(助教)

〈雑誌論文〉

Shirota, A., M. Kamimura, A. Kishi, H. Adachi, M. Taniike, T. Kato. Discrepancies in the time course of sleep stage dynamics, electroencephalographic activity and heart rate variability over sleep cycles in the adaptation night in healthy young adults. *Frontiers in Physiology*, 12: 623401-1-11, 2021.

Ojio, Y., A. Kishi, T. Sasaki, F. Togo. Association of depressive symptoms with habitual sleep duration and sleep timing in junior high school students. *Chronobiology International*, 37: 1-10, 2020.

〈招待講演・シンポジウム〉

岸哲史. リモートワークによる心身への影響とその解決策としてのシステムのあるべき姿. ヘルスケアIoTコンソーシアム・公開シンポジウム「リモートワークでの心身健康への影響とヘルスケアIoTの対応」, オンライン開催 (2020年10月).

教職開発コース

藤江康彦(教授)

〈著書〉

藤江康彦 (単著), 「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成と学習評価」 お茶の水女子大学附属中学校 (編) 『コミュニケーションデザインの学びをひらく: 教科横断で育てる協働的課題解決の力』, 明石書店, 2020, Pp.164-170, 総頁数202.

藤江康彦 (単著), 「「子どもの“今”からつくることばの学習」をどうとらえるか」 お茶の水女子大学附属小学校, NPO法人お茶の水児童教育研究会 (編著) 『“世界”が広がる「ことば」の学び: 子どもとつくる国語・外国語』, 展望社, 2021, Pp.194-199, 総頁数209.

〈雑誌記事〉

藤江康彦 (単著), 「カリキュラムマネジメントの考え方と実践に向けて」, 『看護教育 8月号』第61巻第8号, 医学書院, 2020, 678-686.

藤江康彦 (単著), 「これからの時代における教育センターの役割」, 岡山県教育委員会 (編) 『教育時報2021年3月号』第73巻3号, 岡山県教育広報協会, 2021, 4-7.

〈講演等〉

藤江康彦 (企画・司会), 「課題研究Ⅳ 教育方法学の教育方法学を, 教育方法学者としてどのように

考え、実践するか」(草原和博氏と共同企画, 登壇者: 吉田成章氏, 渡辺貴裕氏), 日本教育方法学会第56回大会 (於: 宮崎大学, 宮崎市 (オンライン開催)), 2020年10月11日, 日本教育方法学会第56回大会発表要旨, 2020, 156-159.

藤江康彦 (招待講演), 「いま教師に求められる資質・能力と学びの在り方: これからの授業づくりと学校づくりを見据えて」, 令和2年度全国教育研究所連盟研究協議会(滋賀大会) (於: 滋賀県総合教育センター), 2020年11月20日.

藤江康彦 (企画・司会), 「学校におけるケア・福祉・生活指導と授業づくり」(川地亜弥子氏と共同企画, 登壇者: 久保恵美氏, 松崎正治氏, 吉永紀子氏, 石垣雅也氏, 浅井幸子氏), 日本教育方法学会第23回研究集会 (オンライン開催), 2021年3月20日.

浅井幸子 (教授)

〈著書・共著, 分担執筆〉

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター監修, 秋田喜代美編集代表『発達保育実践政策研究のフロンランナー』中央法規出版, 2021年2月。(浅井幸子・若林陽子「日本における保育研究の歴史的展開—東京保育問題研究会に着目して」197-226頁。浅井幸子「『保育の質』を超えて—ポスト基礎づけ主義の保育学の展開」257-291頁。)

北欧教育研究会編著『北欧の教育最前線—市民社会をつくる子育てと学び』明石書店, 2021年2月。(浅井幸子「スウェーデンのレッジョ・インスピレーション」84-88頁。)

〈論文・単著〉

浅井幸子「保育の新たな物語りへ—公教育としての保育」『発達』162号, 2020年4月, 2-7頁。

浅井幸子「『赤い鳥』と生活綴方における子どもの構築—文化の創り手としての子ども—」『幼児教育史研究』15号, 2020年12月, 50-63頁。

〈論文・共著〉

浅井幸子・黒田友紀・北田佳子「カナダ・オンタリオ州のレッジョ・インスピレーション」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第60号, 2021年3月, 645-662頁。

野澤祥子・淀川裕美・菊岡里美・浅井幸子・遠藤利彦・秋田喜代美「保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響につ

いての検討」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第60号, 2021年3月, 545-568頁。

〈学会発表〉

浅井幸子・太田素子「プロジェクト・アプローチの研究 (1) —“Tree”のドキュメンテーションとリフレクション—」日本保育学会第73回大会, 2020年5月, 奈良女子大学 (要旨をもって発表と認める)。

太田素子・浅井幸子「プロジェクト・アプローチの研究 (2) —1・2歳児「渦」の分析を手がかりに—」日本保育学会第73回大会, 2020年5月, 奈良女子大学 (要旨をもって発表と認める)。

浅井幸子「カナダ・オンタリオ州におけるレッジョ・インスピレーションの展開」日本教育方法学会第56回大会, 2020年10月11日, 宮崎大学 (オンライン開催)。

浅井幸子「学びの主体としての子ども」日本教育方法学会第23回研究集会「学校におけるケア・福祉・生活指導と授業づくり」, 2021年3月20日, オンライン開催。

〈その他〉

〈エッセイ〉

浅井幸子「【北欧の教育最前線】スウェーデンのレッジョ・インスピレーション」『教育新聞』2020年4月4日。

〈書評〉

浅井幸子「日本教育方法学会編『教育方法49 公教育としての学校を問直す』」『教育方法学研究』46巻, 2021年3月。

教育内容開発コース

北村友人 (教授)

〈著書〉

佐藤真久・北村友人・馬奈木俊介 (共編)『SDGs時代のESDと社会的レジリエンス』筑波書房, 2020年4月, 総頁数158。

Yuto Kitamura and Will Brehm (eds.). *Public Policy Innovation for Human Capital Development*, Tokyo: Asian Productivity Organization, December 2020, 166p.

〈論文〉

北村友人・荻巣崇世・芦田明美 (共著)「SDGs時代における『学び』のあり方を『文化』の視点から捉え直す」関根久雄編『持続可能な開発における〈文化〉の居場所—「誰一人取り残さない」開発への応答—」春風社, 2021年1月, 91-114頁。

James H. Williams, Will Brehm and Yuto Kitamura (co-authored). "Measuring What Matters? Mapping Higher Education Internationalization in the Asia-Pacific", *International Journal of Comparative Education and Development*, Vol.23, Issue 2, 2021, pp.65-80.

〈評論等〉

北村友人（単著）「ウィズ／ポスト・コロナ社会におけるSDGsを『教育』の視点から捉え直すー教育と健康のネクサスと社会の安定」味埜俊編『Tokyo College Booklet Series 5: コロナ危機を越えてーSDGs』東京大学国際高等研究所東京カレッジ, 2020年11月, 20-29頁.

北村友人（単著）「コロナ禍の中で比較教育研究をどう進めるか」森下稔・鴨川明子・市川桂編『比較教育学のアカデミック・キャリアー比較教育学を学ぶ人の多様な生き方・働き方』東信堂, 2021年3月, 45-49頁.

学校開発政策コース

勝野正章（教授）

〈著書〉

浦野東洋一・勝野正章・中田康彦・宮下与兵衛（編著）『校則, 授業を変える生徒たち 開かれた学校づくりの実践と研究』同時代社, 2021, 総頁数306.

〈雑誌論文〉

勝野正章（単著）「改めて, 教員の『働き方改革』を考える」『学校運営』No.704 2020, pp.8-11.

勝野正章（単著）「課題研究『教育と福祉の統一的保障をめぐる教育政策の課題と展望』のまとめ」『日本教育政策学会年報』第27号, 2020年, pp.135-138.

勝野正章（単著）「子どもと教員の危機に打ち克つために 協働して『ブラック職場』の一掃を」日本子どもを守る会編『子ども白書2020』かもがわ出版, 2020, pp.34-39.

〈その他〉

勝野正章（学会発表）「教師と校長のプライバシーに関する認識と知識, そして鑑別 (Teachers' and principals' perceptions, knowledge and discernment with regard to privatization)」日本教育政策学会第27回大会, 公開シンポジウム「学校自治と教育スタンダード」東京都立大学（オンライン開催）2020年11月15日.

村上祐介（准教授）

〈著書〉

村上祐介・橋野晶寛（共著）『教育政策・行政の考え方』, 有斐閣, 2020, 総頁数270（序章, 7-12章執筆）.

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（監修）, 秋田喜代美（編集代表）, 秋田喜代美（編集）, 小玉重夫（編集）, 『発達保育実践政策学研究のフロンランナー 第2巻 保育・子育ての社会科学』, 中央法規出版, 2021, 総頁数294.（「保育と政治」83-108頁を小玉重夫と共著）

〈雑誌論文〉

村上祐介（単著）, 「地方創生と自治体教育行政」, 『日本教育行政学会年報』第46号, 教育開発研究所, 2020, pp.21-37.

〈その他〉

村上祐介（単著）, 「コロナを経て, 学校現場と教育委員会の望ましい関係性」, 『教職研修』2020年10月号, 2020, pp.38-39.

村上祐介「『9月入学』の荒唐無稽な議論「教育」が政治のおもちゃにされている」（インタビュー）, WEZZY (<https://wezz-y.com/archives/77610>), 2020

村上祐介（単著）, 「自治体が国の要請を受けた背景と今後の課題」『教職研修』2020年6月号, pp.80-81.

村上祐介（単著）, 「高校教育は改革より改善を」ニューサポート高校「教育情報」vol.27, 2020, pp.2-3.

橋野晶寛（准教授）

〈著書〉

村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣, 2020, 総頁数270.（共著, 1-6章, 終章執筆）

川上泰彦編著・網谷綾香・梅澤希恵・榎景子・神林寿幸・妹尾渉・町支大祐・當山清実・橋野晶寛・波多江俊介『教員の職場適応と職能形成ー教員縦断調査の分析とフィードバック』ジアース新社, 2021, 総頁数248.（5章, 補論分担執筆）

〈雑誌論文〉

橋野晶寛, 「地方教育政策の政治過程」『教育社会科学研究』106集, 2020, pp.13-33.

橋野晶寛, 「教育行政学における量的研究の意義と課題 言語としての量的方法の理解と運用におけ

る課題」『日本教育行政学会年報』46号, 2020, p.213.

橋野晶寛, 「労働環境と教職選択・教員供給—研究動向と今後の研究課題—」『教育行政学論叢』40号, 2020, pp.111-128.

〈学会発表〉

橋野晶寛, 「労働環境と教職選択の関係に関する計量的実証分析」日本教育行政学会第55回大会（於北海道大学・オンライン開催）2020年10月3日.

学校教育高度化・効果検証センター

栗田佳代子（教授）

〈著書〉

栗田佳代子（分担執筆）（2021）第7章「大学教育開発論」（東京大学教養教育高度化機構アクティブラーニング部門 編『東京大学のアクティブラーニング』. 東京大学出版会, 総頁数 210）2021 pp.89-102

栗田佳代子・吉田壘（編著）『リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座』, 医学書院, 2021, 総頁数 110

佐藤浩章・栗田佳代子（編著）『授業改善』, 玉川大学出版部, 2021, 総頁数 204

中村長史・栗田佳代子（編著）『インタラクティブ・ティーチング 実践編1 学びを促す授業設計—クラスデザインの方法と実例—』, 河合出版 2021 総頁数120

栗田佳代子（分担執筆）「第3章 大学院博士課程における大学教員養成」（（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構（編著）『大学が「知」のリーダーになるための成果重視マネジメント』, ぎょうせい, 総頁数 158), 2020, pp.97-117

〈雑誌論文〉

栗田佳代子, 「大学院生のための教育研修の現状と課題」教育心理学年報, 第59号, 2020, 191-208

栗田佳代子（単著）「大学教員の教育業績評価の方法としてのティーチング・ポートフォリオ」, 大学評価研究, 第19号, 2020, pp.55-64,

Kurita, K. & Yoshida, L. (2020) Creating a “Teaching Portfolio Chart” for reflection and clarifying one’s own teaching philosophy, *ETH Learning and Teaching Journal*, 2(2), 2020., pp.196-200. (<https://learningteaching.ethz.ch/index.php/lt-eth/article/view/131/121>)

栗田佳代子（共著）, 「東京大学におけるオンライン

授業の始まりと展望」（田浦健次朗, 明比英高, 秋田英範, 郡司彩, 工藤知宏, 空閑洋平, 栗田佳代子, 黒田裕文, 三浦紗江, 中村文隆, 中村宏, 小川剛史, 岡田和也, 坂口菊恵, 関谷貴之, 柴山悦哉, 玉造潤史, 友西大, 椿本弥生, TAVARES VASQUES Diego, 吉田壘との共著）コンピュータソフトウェア, 第37(3)号, 2020 pp.3_2-3_8

栗田佳代子（共著）, 「教員研修の改善報告—「インターラクティブティーチング」の視点を基に—」, （野村健太, 鈴木圭子, 古賀友輔,）JAXA宇宙教育センター紀要, 第1号, 2020, pp.46-53

草 薨 佳奈子（助教）

〈雑誌論文〉

草薨佳奈子（単著）「インドネシアにおける総合学習とESD—総合カリキュラムと環境教育プログラム「アディウィヤタ」の実践—」『武蔵大学教職課程研究年報』35, 2021, pp. 203-211

草薨佳奈子（単著）「インドネシアの教員コミュニティにおける「教員ストラテジー」に関する考察—ジャワの公立中学校の事例を通して—」『比較教育学研究』61, 2020, pp. 120-140.

〈その他〉

草薨佳奈子, 松田弥花, 佐藤真久（共著）「VUCA社会における参加と変容を促すESDアプローチ：スウェーデンの民衆教育と社会的学習の事例研究から」『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センタープロジェクトワーキングペーパー「持続可能な開発のための教育（ESD）」のイノベーションに関する日本・スウェーデン比較研究』No. 1, 2020.

〈学会等発表〉

草薨佳奈子「インドネシアの実践から見る市民性教育としての総合学習と特別活動の可能性」日本特別活動学会 第29回岡山大会, 2020年12月12日, オンライン開催.

Kusanagi, K. N. “Symposium: Building a Caring Community through Tokkatsu under the COVID-19 pandemic,” The 11th International Conference on Lesson Study (ICLS) 2020, Online, September 2, 2020 (Organized a symposium).

Kusanagi, K. N. “Transforming Learning and Building a Caring Community in the Pandemic,” The 11th International Conference on Lesson Study (ICLS) 2020, Online, September 1, 2020 (Invited Plenary

Speaker).

Kusanagi, K. N. "Reconceptualizing Learning in the Disruptive Era," Embracing Change and Transformation of Education, Economics, Business, Management and Accounting in The Disruptive Era," The 5th Padang International Conference on Education, Economics, Business and Accounting by Universitas Negeri Padang/Online, July 18, 2020 (Invited Keynote).

Kusanagi, K. N. "What Will School Look Like Under the New Normal Era," International Webinar on Education," Leading Change of Education in The New Normal Era," Post Graduate School of Education, Pakuan University/Online, July 4, 2020 (Invited Keynote).

天 井 響 子 (特任研究員)

〈著書〉

天井響子・滝沢龍. (2021.3.). 『10章 平均値の比較 (2) 2 要因分散分析』(滝沢龍氏との共著) 石井秀宗・滝沢龍 (編) 公認心理師カリキュラム準拠臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法], 医歯薬出版, 2021, 総頁数248.

〈雑誌論文〉

Amai, K., & Emi, K. (共著), 「Differences between helpful and unhelpful support for Japanese non-help-seeking adolescents: A qualitative analysis」(Kiriko Emi氏との共著), 『*International Journal of School & Educational Psychology*』2021, DOI: 10.1080/21683603.2020.1862725

天井響子 (学会発表), 「「助けて」を言わない若者をどう支援できるのか: 問題領域, 教師介入, および当事者の認識に着目した質的検討」, 『日本心理学会第84回大会発表論文集』2020.

発達保育実践政策学センター

野 澤 祥 子 (准教授)

〈著書〉

野澤祥子 デジタル絵本と子どものかわり: 5 歳児の小集団での検討 2020 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (監修) 秋田喜代美 (編集代表) 発達保育実践政策学研究のフロンランナー 第3巻 乳幼児の発達科学 pp.127-151 中央法規出版

新保庄三・野澤祥子 2020 自園で新型コロナウイ

ルスの感染者が出たとき: 事例に学ぶ 保育園・幼稚園・こども園ですぐにすること・日頃から備えておくこと ひとなる書房

〈論文〉

野澤祥子・淀川裕美・菊岡里美・浅井幸子・遠藤利彦・秋田喜代美 2021 保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響についての検討 東京大学大学院教育学研究科紀要, 60, 545-568

野澤祥子 2021 新型コロナウイルス感染症に関わる保育・幼児教育施設の対応や影響について 小児保健研究80 (1), 15-18

石橋美香子・高橋翠・野澤祥子 2020 保育士の経験年数と視線行動の関連: ウェアラブル型イトラッカーを用いた検討 認知科学 (4), 540-553

〈学会発表〉

野澤祥子・真田美恵子・李知苑・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・遠藤利彦・秋田喜代美 2021 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査2020 (3) 一夫婦関係と養育行動の父母間の相互関連性に関する縦断的検討 日本発達心理学会第32回大会

唐音啓・真田美恵子・李知苑・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 2021 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査2020 (2) 一母親の子育て肯定感と周囲のサポートおよび子どもの社会情緒的能力との関連—日本発達心理学会第32回大会

李知苑・真田美恵子・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 2021 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査2020 (2) 一母親の子育て肯定感と周囲のサポートおよび子どもの社会情緒的能力との関連—日本発達心理学会第32回大会

飯田啓太・秋田喜代美・汪雪婷・山崎俊彦・鳥海哲史・林幹久・野澤祥子・高橋翠・廣戸健悟・遠藤利彦 2020 保育施設における行動検出・理解のための映像データセット構築 人工知能学会全国大会論文集 JSAI2020(0), 1H5GS1005-1H5GS1005

野澤祥子・淀川裕美・遠藤利彦 2020 新型コロナウイルス感染症に関わる保育・幼児教育施設の対応や影響 1 一感染症対策と職員のストレスに焦点をあてて— 日本乳幼児教育学会第30回大会

淀川裕美・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 2020
新型コロナウイルス感染症に関わる保育・幼児教育施設の対応や影響 2—withコロナ・afterコロナの保育に焦点をあてて— 日本乳幼児教育学会第30回大会

〈学会シンポジウム〉

野澤祥子 2021 日本発達心理学会第32回大会学会企画シンポジウム「デジタル機器使用が子どもの発達に及ぼす影響」指定討論

〈論考〉

野澤祥子 2021 子育てにおける夫婦の役割分担の再考—コロナ禍での調査をきっかけに考えたこと 家庭科, 5, 1-5

野澤祥子・淀川裕美・高橋翠 2020 乳幼児とその施設への影響 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター調査より 子ども白書2020, 50-53

淀川裕美 (特任准教授)

〈著書〉

淀川裕美 2021 「第2章 園での食事経験を子どもの視点から探る試み—文化的・社会的営みとしての食事」東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (監修) 秋田喜代美 (編)『発達保育実践政策学研究のフロントランナー 第1巻 保育の実践科学』, 中央法規, 総頁数946.

〈雑誌論文〉

野澤祥子・淀川裕美・菊岡里美・浅井幸子・遠藤利彦・秋田喜代美 2021 「保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる 対応や影響についての検討」,『東京大学大学院教育学研究科紀要』第60号, pp.545-568.

〈調査報告書〉

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2021 文部科学省委託 「令和二年度 幼児教育の教育課題に対応した指導方法充実調査研究」報告書「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム (ECEQ) の質的検証—園の独自性と多様性を尊重した効果的な学校評価の検討— (追跡調査)」.

〈調査報告リーフレット〉

門田理世・箕輪潤子・淀川裕美・秋田喜代美・芦田宏・小田豊・鈴木正敏・中坪史典・野口隆子・上田敏丈・森暢子・棕田善之 2021 「つながる園

内研シリーズ2 園内研修で学びをつなぐ—園内研修における保育者の学びの様相—. (日本学術振興会 基盤研究A「保育者の学習過程を支える園内研修とリーダーシップの検討」課題番号: 16H02063, 研究代表: 秋田喜代美)

〈学会発表〉

淀川裕美・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 新型コロナウイルス感染症に関わる保育・幼児教育施設の対応や影響 2—withコロナ・afterコロナの保育に焦点をあてて—, 日本乳幼児教育学会第30回大会 (オンライン開催 ポスター発表: 2020年11月14日)

高橋 翠 (特任助教)

〈著書〉

野澤祥子・淀川裕美・高橋翠, 「乳幼児とその施設への影響 (緊急企画 コロナ子どもクライシス)」, 『子ども白書2020』, pp50-53, かもがわ出版, 2020.

〈雑誌論文〉

高橋翠, 「笑顔と魅力の関係性—ヒトは顔から何を読み取っているか—」, 『エモーション・スタディーズ』, 6(1), pp28-36, 日本感情心理学会, 2021.

石橋美香子・高橋翠・野澤祥子, 「保育士の経験年数と視線行動の関連: ウェアラブル型アイトラッカーを用いた検討」, 『認知科学』, 7(4), pp540-553, 日本認知科学会, 2020.

高橋翠, (学会発表) 「乳幼児のマルチメディア環境の実態と課題 (大会プログラム委員会主催シンポジウム: デジタル機器使用が子どもの発達に及ぼす影響)」, 『日本発達心理学会第32回大会』, 2021.

高橋翠, (学会発表) 「全国保育・幼児教育施設の絵本・本環境実態調査と新型コロナ保護者調査の結果紹介 (ポプラ社×東京大学Cedep「子どもと絵本・本に関する研究」—全国初の幼保調査より—)」, 『第22回図書館総合展_ONLINE』, 2020.

高橋翠, (調査報告書) 「保護者調査報告書vol.1 (基本統計量)」, 『新型コロナウイルス感染症流行に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査』, 2020.

高橋翠, (調査報告書) 「保護者調査速報版 (結果の要点) vol.1」, 『新型コロナウイルス感染症流行に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査』,

2020.

高橋翠. (調査報告書)「新型コロナ関連_保護者調査 (中間集計結果報告)」、『新型コロナウイルス感染症流行に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査』, 2020.

発達保育実践政策学センター. (調査報告書)「幼児教育スマート化に向けた環境・生体・行動センシングとビッグデータ解析～先端技術を活用した教師の指導技術・業務負担, 子どもの行動の可視化～」, 『令和2年度文部科学省委託「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」オ. ICTや先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実のあり方に関する調査研究』, 2020.

西 田 季 里 (特任助教)

〈著書〉

東京大学発達保育実践政策学センター (監修), 秋田喜代美・遠藤利彦 (編)『発達保育実践政策学研究のフロンランナー第1巻』, (分担執筆: 西田季里「子どもの思いやりを見とる試み—園児の向社会的行動についての観察研究と保育実践への示唆」, pp.1-25), 中央法規出版, 2021, 執筆部分総頁数25.

〈論文〉

西田季里 (単著). 「共同行為としての向社会的行動の発達: 向社会的な幼児は向社会的な受け手でもあるか? 期待外れの向社会的行動に対する幼児の受容とその動機についての検討」『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 2021, 60, 1-11.

天 野 美和子 (特任助教)

〈著書〉

天野美和子 (共著), 『マルチステークホルダーの視点からみる保幼小連携接続: その効果と研修のあり方』 (一前春子氏・秋田喜代美氏との共著), 風間書房, 2021, 総頁数436.

天野美和子 (共著), 『発達保育実践政策学研究のフロンランナー』 (監修: 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター, 編集代表: 秋田喜代美氏, 編集: 秋田喜代美氏・小玉重夫氏), 「第2巻-第2章 保育士が経験する予想と現実のギャップ: フルタイム・パートタイム・離職者に着目して」 (森川想氏・関智弘氏との共著), 中央法規, 2021, 総頁数946.

天野美和子 (共著), 『子どもの理解と保育・教育相

談 [第2版]』 (編: 小田豊氏・秋田喜代美氏), 「第2章 子どもの発達理解と相談・支援」, 株式会社みらい, 2021, 総頁数192.

〈学会発表論文〉

天野美和子 (共著), 「自治体主催の保幼小連携・接続研修の機能: 連携段階の比較検討」 (一前春子氏・秋田喜代美氏との共著), 『日本乳幼児教育学会第30回大会研究発表論文集』, 2020.

天野美和子 (単著), 「異世代との交流で育まれる幼児の10の姿: 幼児と中高生との触れ合い体験活動に着目して」, 『国際幼児教育学会第41回大会発表論文集』, 2020, pp.102-105.

天野美和子 (共著), 「自治体主催の保幼小連携・接続研修の機能: 県・市区・町村の比較検討」, (一前春子氏・秋田喜代美氏との共著), 『日本教育心理学会第62回総会発表論文集』, 2020, p.98.

新 屋 裕 太 (特任助教)

〈著書〉

新屋裕太・藤井進也・奥絢介・渡辺はま・多賀厳太郎 (共著), 「乳児の運動計測技術による発達理解とその未来」, 発達保育実践政策学センター (監修), 秋田喜代美・遠藤利彦 (編著)『発達保育実践政策学のフロンランナー 第3巻 乳幼児の発達科学』, 中央法規出版, 2020, 総頁数32.

新屋裕太・野澤祥子 (監修). (2020). 『いないいないばあ! えほん』. かしわらあきお (著), 主婦の友社, 2020, 総頁数96.

〈雑誌論文〉

新屋裕太 (単著), 「泣き」の発達の意義を再考する: 発達初期の泣き声の音響特性と言語・社会性発達の関連から」, 『ベビーサイエンス』第20号, 2021, pp.22-45.

〈学会発表〉

Shinya, Y., Oku, K., Watanabe, H., Taga, G., & Fujii, S. Heartbeat of infant drummer: Allostatic regulation of cardiovascular system in auditory-motor integration at three-month-old. XXII Biennial International Conference on Infant Studies, 2020 (poster: 6-9th, July).

新屋裕太・石橋美香子・野澤祥子「好奇心といないないばあ: 乳幼児の視覚的注意の発達の变化および個人差の検討」, 『日本赤ちゃん学会 第20回学術集会』, 2020 (ポスター発表: 9月19日).

〈その他〉

新屋裕太,「この人をたずねて (増田貴彦氏)」,『心理学ワールド』, 91号.

新屋裕太,「『いないいないばあ』が子どもを夢中にさせる訳」,『東洋経済オンライン』(<https://toyokeizai.net/articles/-/364662>)

海洋教育センター

日 置 光 久 (特任教授)

〈著書〉

日置光久 (編著) 『資質・能力が育つ理科学習指導の展開と評価』(猿田祐嗣氏, 谷友雄氏との共編) ぎょうせい 2020 総頁数201

日置光久 (監修) 『防災にも役立つ 川のしくみ』 誠文堂新光社 2021 総頁数80

日置光久 (編著) 『アクティブラーニング実践書 体験と学びを深めるネイチャーゲーム』(神長美津子氏との共編) 日本シェアリングネイチャー協会 2021 総頁数128